

II 藤沢市の状況

- 1 藤沢市の概要
- 2 藤沢市の食を取り巻く現状



ふじさわバランストリオ

1 藤沢市の概要

(1) 藤沢市の地域性

本市は、湘南の海に開かれ、遠くに富士山を望むことができる恵まれた自然環境に加え、マリンスポーツの盛んな片瀬海岸や、古くから参詣・遊山の地として賑わってきた江の島を有する観光都市でもあることから、古くから宿場町、保養地として発展してきました。

現在では、藤沢駅を中心として交通の利便性も高いことから、湘南海岸の温暖かつ穏やかな気候を求める人々や良好な自然・住・教育環境を求める人等により、戦前から現在まで人口が増加し続けています。

また、豊かな自然からの恵みである新鮮な魚介類に加え、湘南野菜をはじめとした地域ブランドの農産品も豊富です。

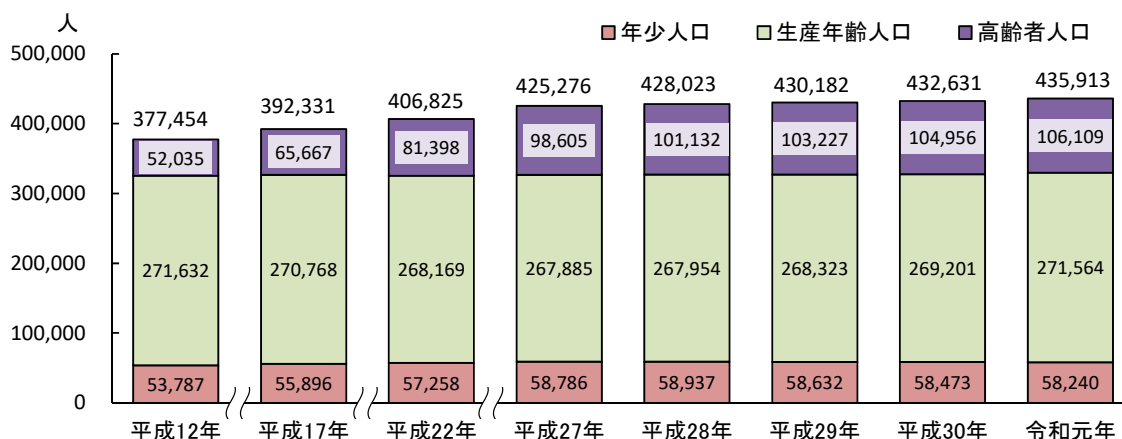
本市では、このような地域性を踏まえ、様々な関係機関や団体等と連携し、藤沢らしい食育を推進していきます。

(2) 人口の推移と人口推計

本市の人口は、2008年（平成20年）に40万人を超え、2019年（令和元年）には435,913人となっています。人口の将来見通しでは、2030年（令和12年）をピークに総人口は減少が予測され、年少人口（0～14歳）は減少・横ばいが続き、生産年齢人口（15～64歳）は減少が見込まれますが、高齢者人口（65歳以上）は増え続けます。

（図1、2）

図1 人口の推移

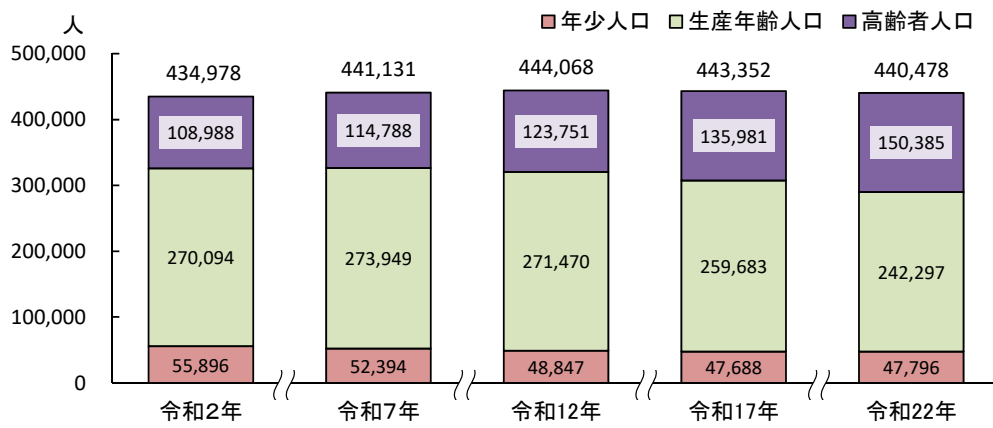


※住民基本台帳による（各年10月1日現在）

※平成24年7月に外国人登録法が廃止されたことに伴い平成24年以降は外国籍人口を含む

※平成30年の総人口には年齢不詳1を含む

図2 人口の将来見通し



※平成29年度藤沢市将来人口推計(中間報告)から引用(平成27年国勢調査に基づく推計値)
(各年10月1日現在)

(3) 人口構成及び出生・死亡の状況

2019年(令和元年)10月現在の本市の1世帯の構成員数は2.28人で、県よりも0.07人多くなっています。

高齢化率は24.3%で、県や国と比較すると低くなっています。平均寿命(男性81.9歳/女性87.6歳)は、県や国よりも高くなっています。(表1)

出生率(7.9)及び合計特殊出生率(1.38)は、いずれも県より高くなっています。

主な死因の中で1位を占める悪性新生物(がん)の死亡率(230.6)は、県や国よりも低くなっています。その他、心疾患の死亡率(108.4)、脳血管疾患の死亡率(56.4)、糖尿病の死亡率(5.6)は、いずれも県や国より低くなっています。(表2)

表1 人口構成・高齢化率等

項目	藤沢市			県	国	データ根拠
	(H29.10)	(H30.10)	(R1.10)			
人口(人)	430,182	432,631	435,913	9,200,166	127,443,563	【市】 住民基本台帳、国勢調査による 【県】 神奈川県人口統計調査 【国】 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数
世帯数	185,282	187,737	190,990	4164,902	58,527,117	
1世帯の構成員数(人)	2.32	2.30	2.28	2.21	2.18	平成27年市区町村別生命表の概況・平成27年都道府県別生命表の概況
高齢化率(%)	24.0	24.3	24.3	24.8	27.6	
平均寿命(歳)	(男)81.9 (女)87.6			(男)81.3 (女)87.2	(男)80.8 (女)87.0	

表2 出生・死亡の状況

項目	藤沢市			県	国	データ根拠
	(H27)	(H28)	(H29)			
出生率(人口千対)	8.4	8.3	7.9	7.4	7.6	【市・県】 神奈川県衛生統計年報 【国】 人口動態統計
合計特殊出生率	1.39	1.42	1.38	1.29	1.43	
悪性新生物の死亡率(人口10万人対)	233.5	257.6	230.6	257.2	299.5	
心疾患の死亡率(人口10万人対)	103.6	106.6	108.4	129.5	164.3	
脳血管疾患の死亡率(人口10万人対)	62.8	58.6	56.4	67.2	88.2	
糖尿病の死亡率(人口10万人対)	5.0	5.2	5.6	8.1	11.2	

2 藤沢市の食を取り巻く現状

計画の改定にあたり、市民の健康に対する意識や健康状態を把握するためにアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の概要

	3歳6か月児の保護者対象調査	小学校6年生対象調査	中学校2年生対象調査	成人対象調査
調査期間	平成30年9月～10月	平成30年9月		
調査対象者	市内在住の3歳6か月児の保護者570人	藤沢市立小学校に在籍する6年生479人	藤沢市立中学校に在籍する2年生770人	市内在住の20歳以上の男女3,000人
有効回収率	83.7%	89.1%	92.7%	47.5%
集計値や図表の表記について	<ul style="list-style-type: none"> ・集計した数値(%)は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が1つだけの場合、選択肢の数値(%)をすべて合計しても、四捨五入の関係で100%にならないことがあります。 ・回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。 			

(1) 健康について

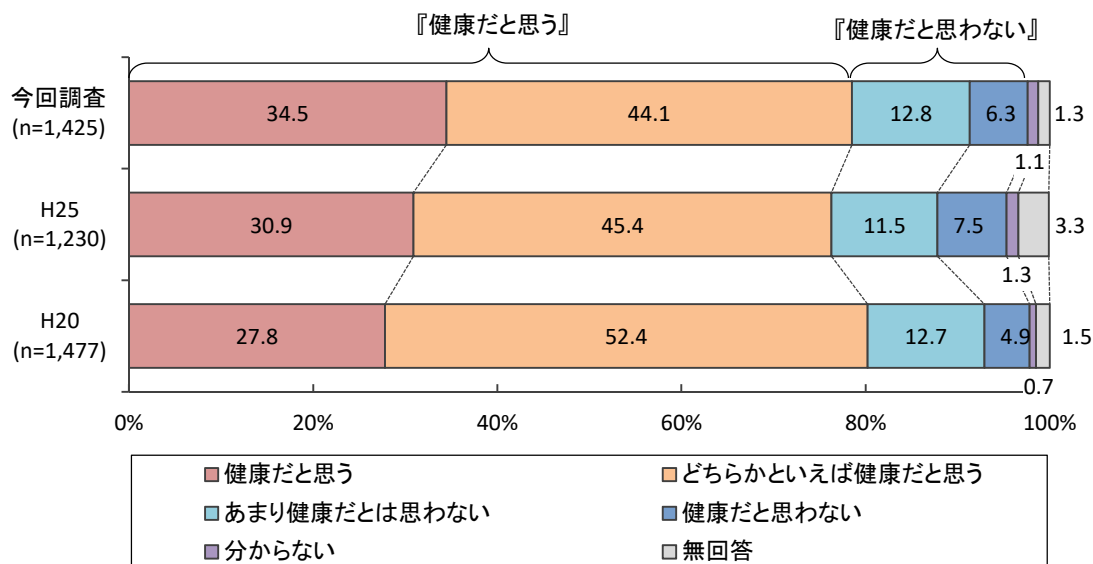
■健康意識（自分の健康状態に対する感じ方）

自分自身が健康だと思っている市民の割合は約78%

自分自身が「健康だと思う」「どちらかといえば健康だと思う」をあわせた「健康だと思う」市民の割合は78.6%となっています。

平成25年調査と比べて2.3ポイント高くなっています。（図3）

図3 健康状態に対する感じ方



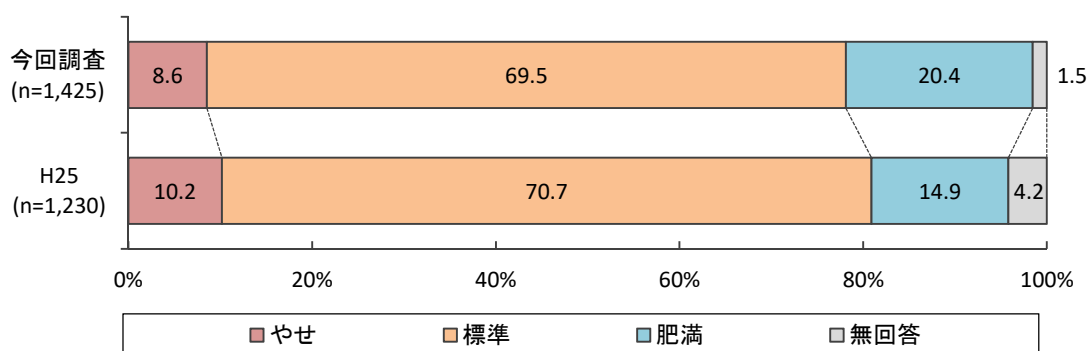
■体型の状況（BMI）

20～39歳女性のうち約18%がやせ、40～64歳男性のうち約38%が肥満

「標準」が最も多く、69.5%となっています。次いで「肥満」が20.4%、「やせ」が8.6%と続いています。（図4）

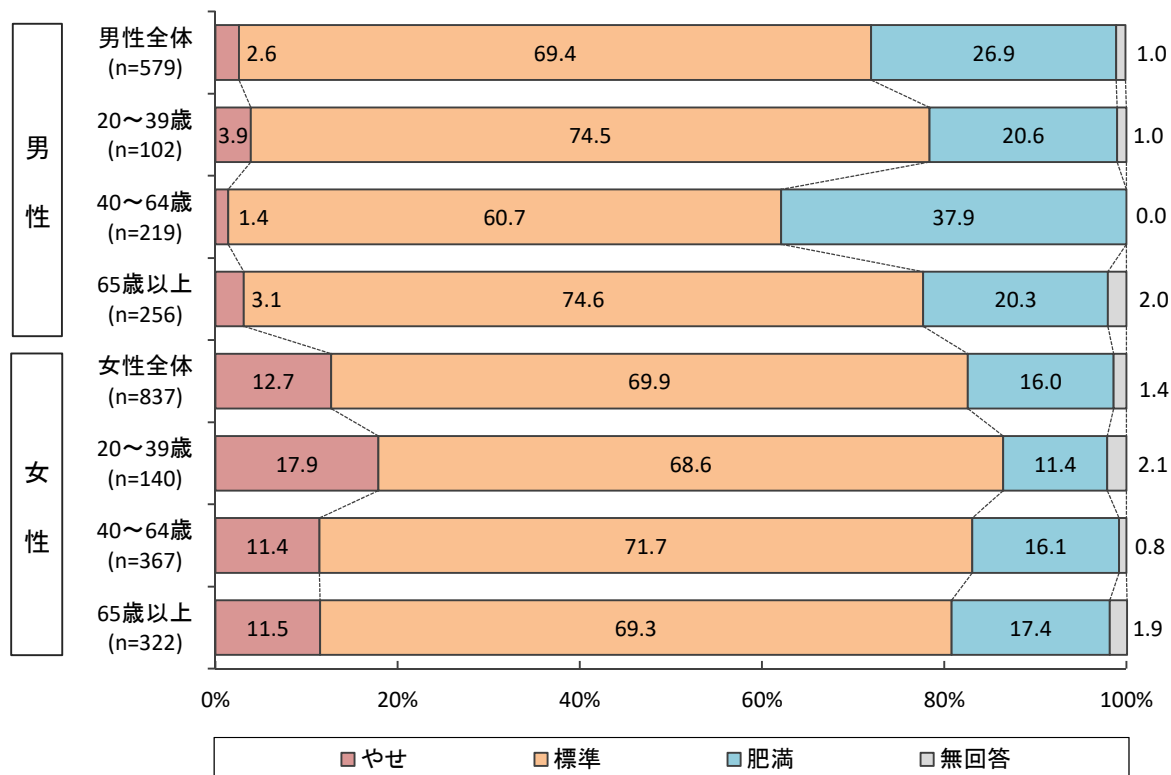
性別ごとに年齢による違いをみると、男女ともにいずれの年齢も「標準」が7割前後となっています。「やせ」はいずれの年齢も女性が男性に比べて多く、20～39歳では2割近くに達しています。「肥満」はいずれの年齢も男性が女性に比べて多く、40～64歳では約4割となっています。（図5）

図4 体格の状況（BMI）



※BMIについてはP48参照

図5 体格の状況（BMI）（性別×年齢別）



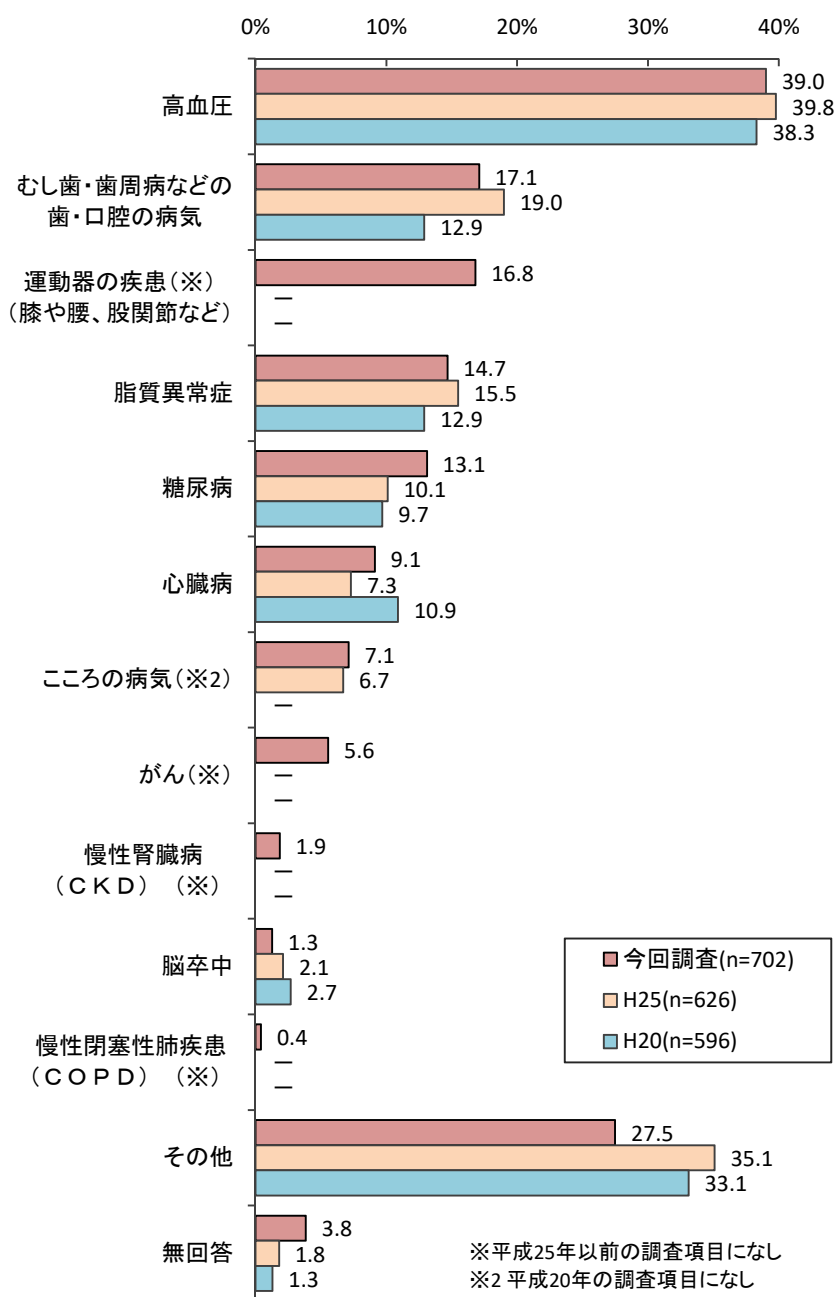
■治療中の病気

高血圧治療中が約 40%、歯の病気治療中と運動器治療中が約 17%

「高血圧」が最も多く、39.0%となっています。次いで「むし歯・歯周病などの歯・口腔の病気」が17.1%、「運動器の疾患」が16.8%、「脂質異常症」が14.7%、「糖尿病」が13.1%と続いています。

「高血圧」「むし歯・歯周病などの歯・口腔の病気」「脂質異常症」は平成25年調査からいずれも下回っています。「糖尿病」は平成20年から今回調査にかけて3.4ポイント多くなっています。（図6）

図6 治療中の病気



■生活習慣病の認知状況

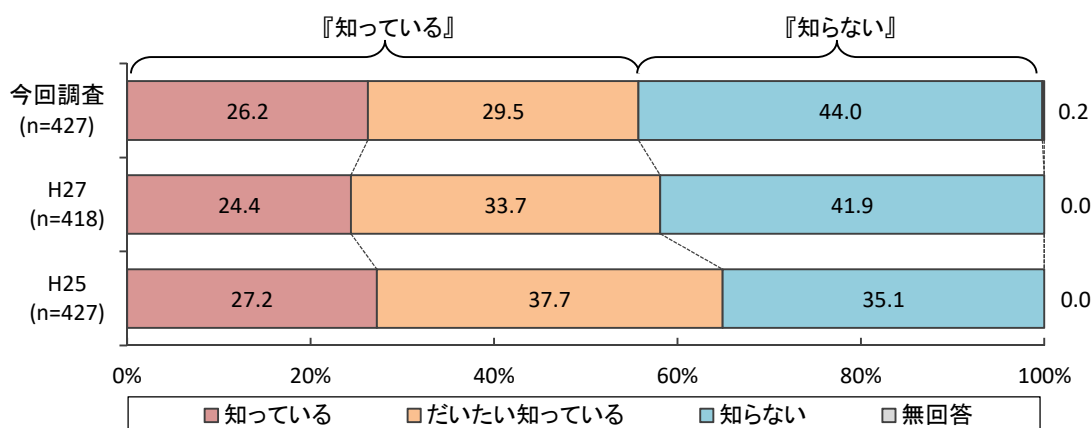
生活習慣病について知っている小学生は約 56%、中学生は約 66%

【小学校 6 年生】

生活習慣病について「知っている」「だいたい知っている」をあわせた「知っている」小学生の割合は 55.7% となっています。

平成 27 年調査と比べて 2.4 ポイント減少しています。（図 7）

図 7 生活習慣病の認知度（小学校 6 年生）

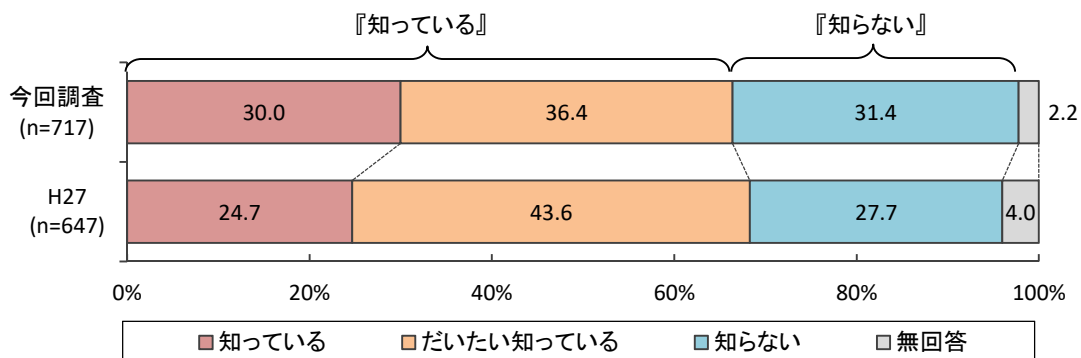


【中学校 2 年生】

生活習慣病について「知っている」「だいたい知っている」をあわせた「知っている」中学生の割合は 66.4% となっています。

平成 27 年調査と比べて 1.9 ポイント減少しています。（図 8）

図 8 生活習慣病の認知度（中学校 2 年生）



○メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）

メタボリックシンドロームは、内臓脂肪型肥満を共通の要因として高血糖、脂質異常、高血圧が引き起こされる状態で、それぞれが重複した場合は命にかかわる病気を招くこともあります。ただし、食べ過ぎや運動不足等、悪い生活習慣の積み重ねが原因となって起こるため、生活習慣の改善によって、予防・改善できます。

（出典：厚生労働省ウェブサイト）

(2) 食生活について

■食育への関心の有無

食育に関心がある市民は男性より女性が多く、10%以上の差がある

食育に「関心がある」「どちらかといえば関心がある」をあわせた「関心がある」市民の割合は78.5%となっています。(図9)

性別でみると、「関心がある」は女性が84.2%と男性の70.5%を13.7ポイント上回っており、特に「関心がある」が44.1%と多くなっています。(図10)

年齢別では「関心がある」人の割合が、年齢が上がるにつれ、高くなっています。(図11)

図9 食育への関心の有無

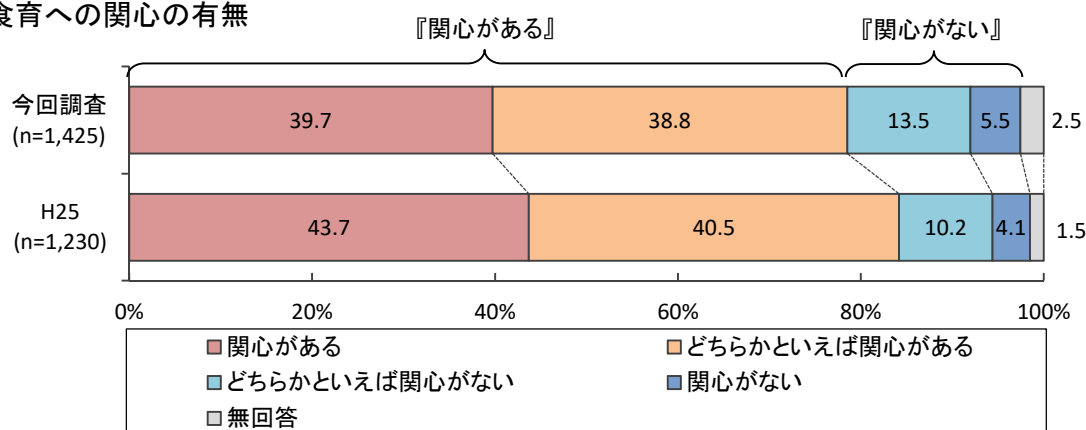


図10 食育への関心の有無 (性別)

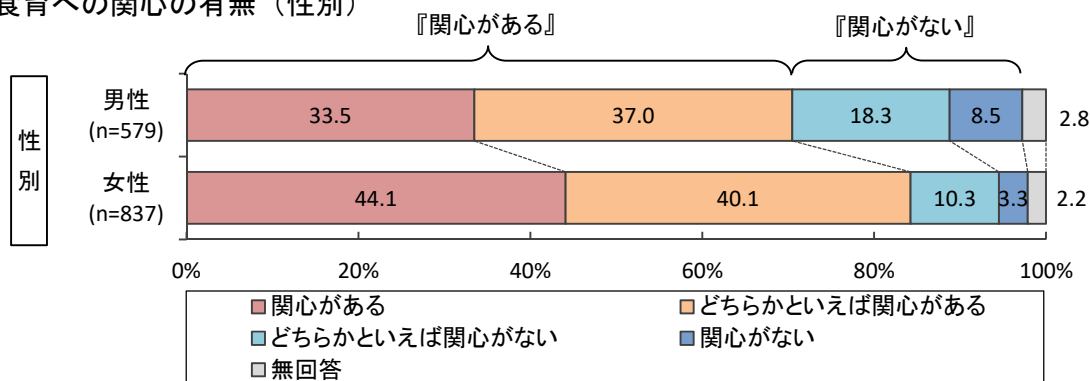
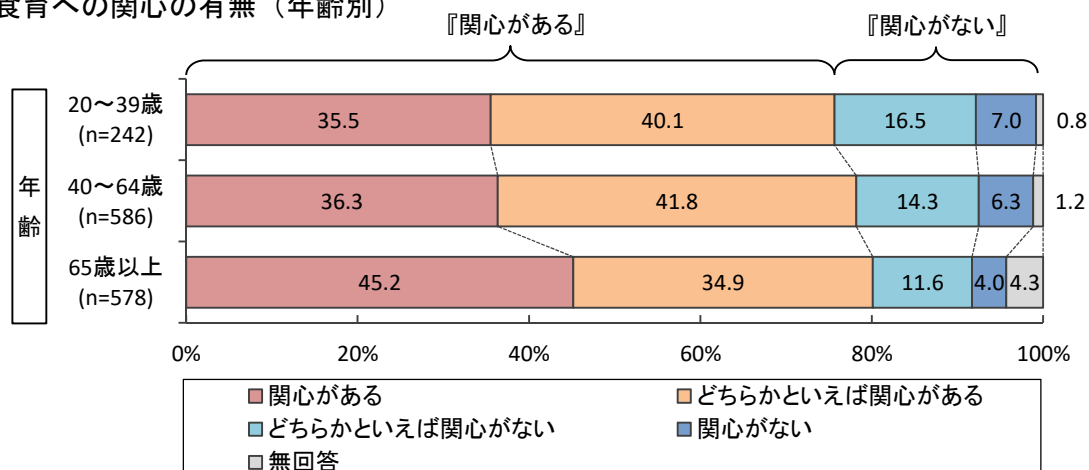


図11 食育への関心の有無 (年齢別)



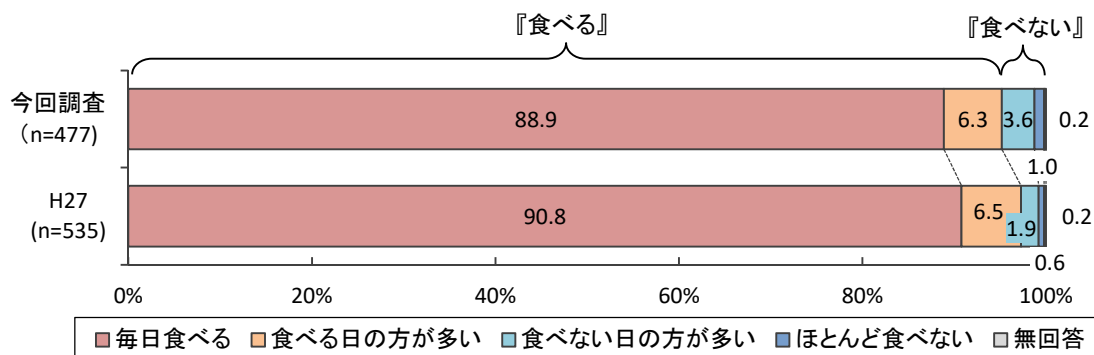
■朝食について

20～39歳の朝食欠食が他の年代に比べて多い

【3歳6か月児】

「毎日食べる」が最も多く、88.9%となっており、「食べる日の方が多い」が6.3%と続いています。（図12）

図12 朝食の摂取状況（3歳6か月児）



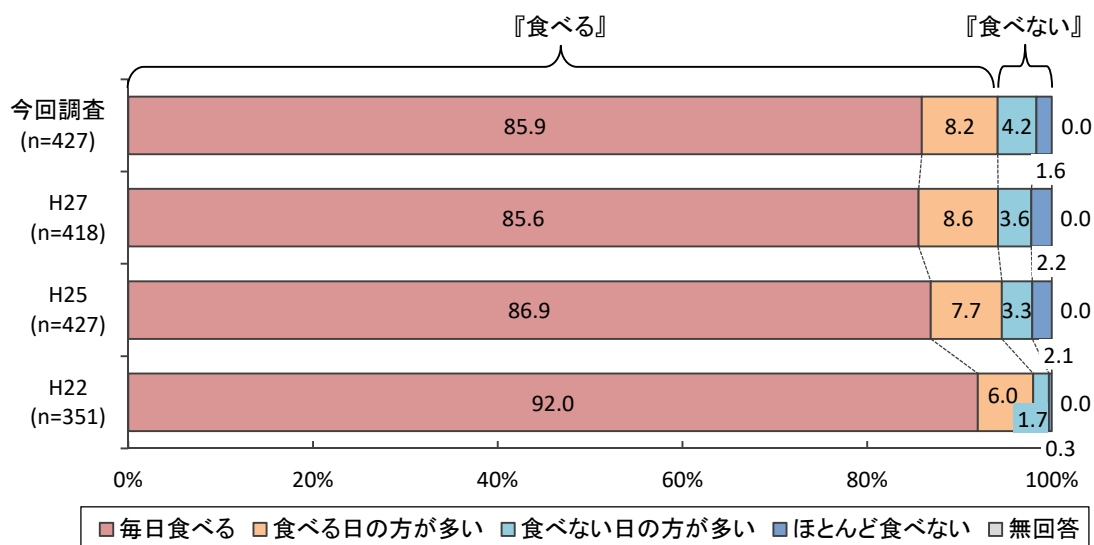
【小学校6年生】

「毎日食べる」が最も多く、85.9%となっており、「食べる日の方が多い」が8.2%と続いています。

平成27年調査と比べて「毎日食べる」小学生の割合は0.3ポイント増加しています。

（図13）

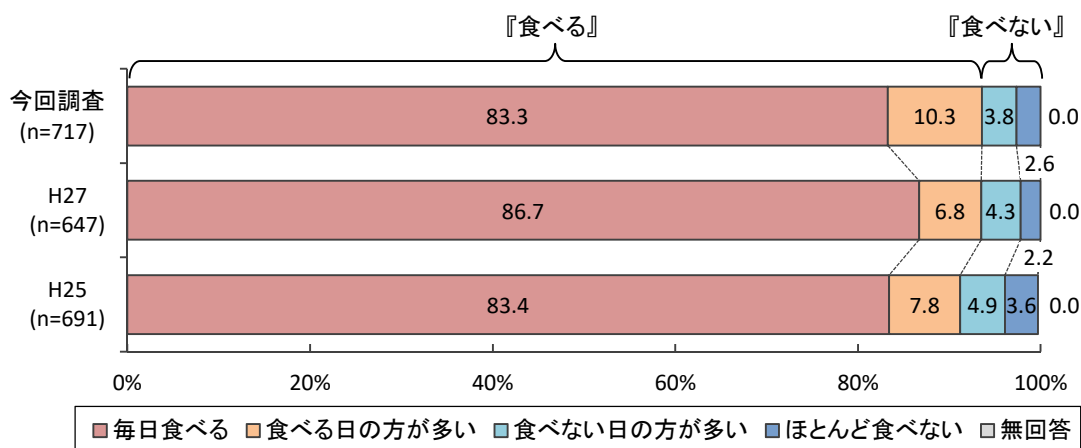
図13 朝食の摂取状況（小学校6年生）



【中学校 2 年生】

「毎日食べる」が最も多く、83.3%となっており、「食べる日の方が多い」が10.3%と続いています。（図 14）

図 14 朝食の摂取状況（中学校 2 年生）



【成人】

「毎日食べる」が最も多く、83.1%となっています。次いで「食べる日の方が多い」が7.1%、「食べない日の方が多い」が5.3%、「食べない」が3.9%と続いています。（図 15）

年齢別で見ると、「毎日食べる」は20～39歳で72.3%と少なくなっていますが、年齢が高くなるにつれて多くなり、40～64歳で79.0%、65歳以上で92.4%となっています。また、「食べる日の方が多い」は20～39歳で11.2%、40～64歳で9.9%となっています。（図 16）

性別ごとに年齢による違いをみると、「毎日食べる」は男性20～39歳の男性で58.8%と少なくなっています。（図 17）

図 15 朝食の摂取状況（成人）

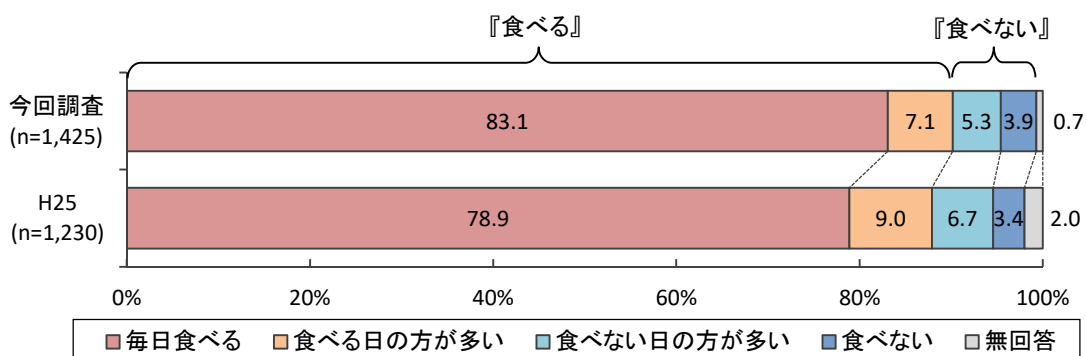


図 16 朝食の摂取状況（年齢別）

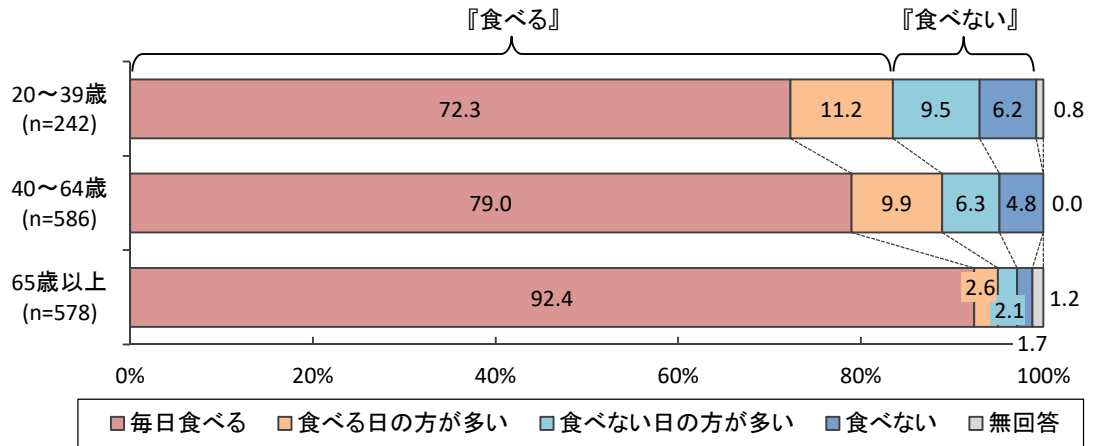
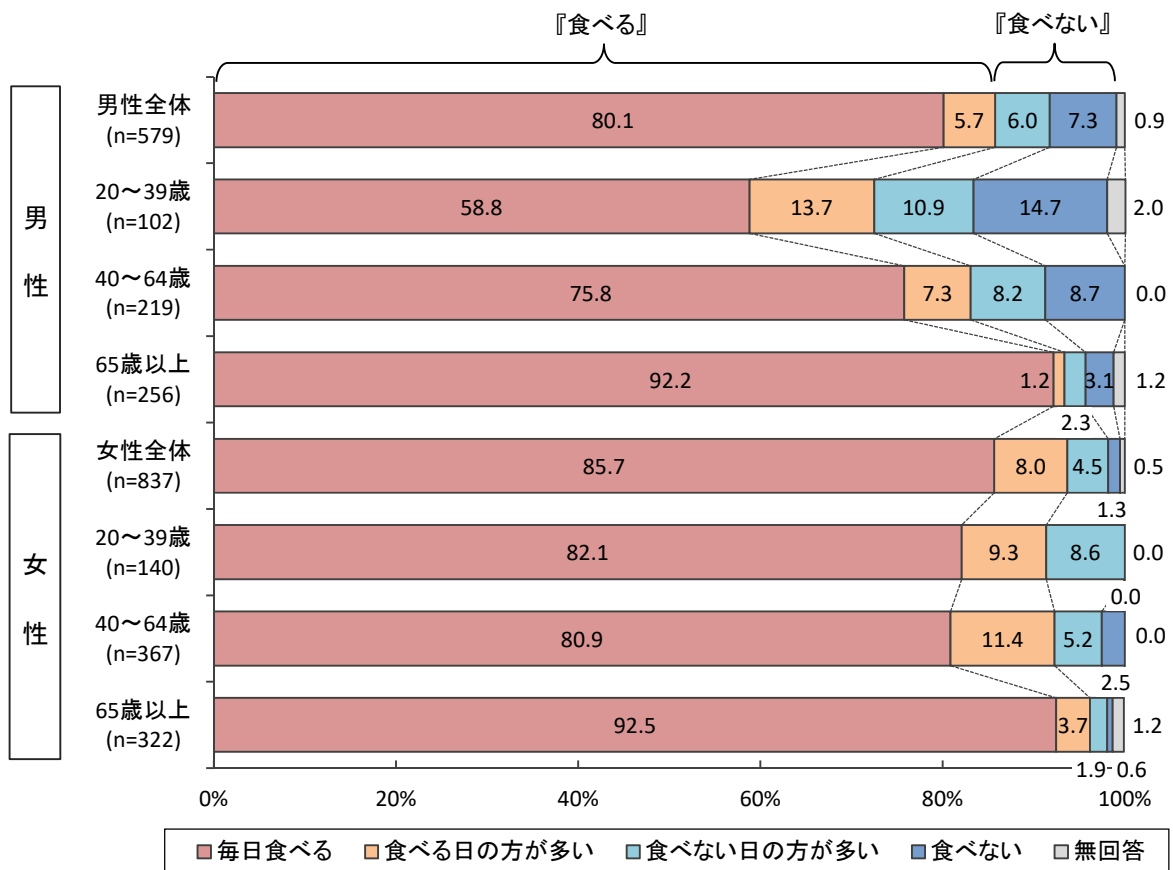


図 17 朝食の摂取状況（性別×年齢別）

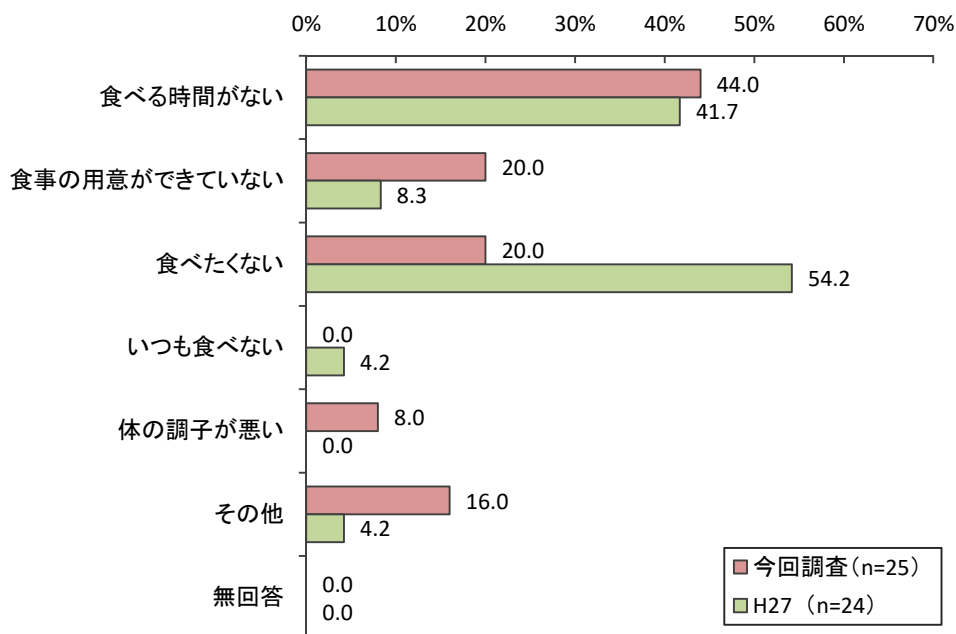


小学生が朝食を食べていない理由として、「時間がない」という回答が最も多い

【小学校6年生】

「食べる時間がない」が最も多く、44.0%となっており、平成27年調査と比べて「食べたくない」が大きく減少しています。（図18）

図18 朝食を食べていない理由（小学校6年生）

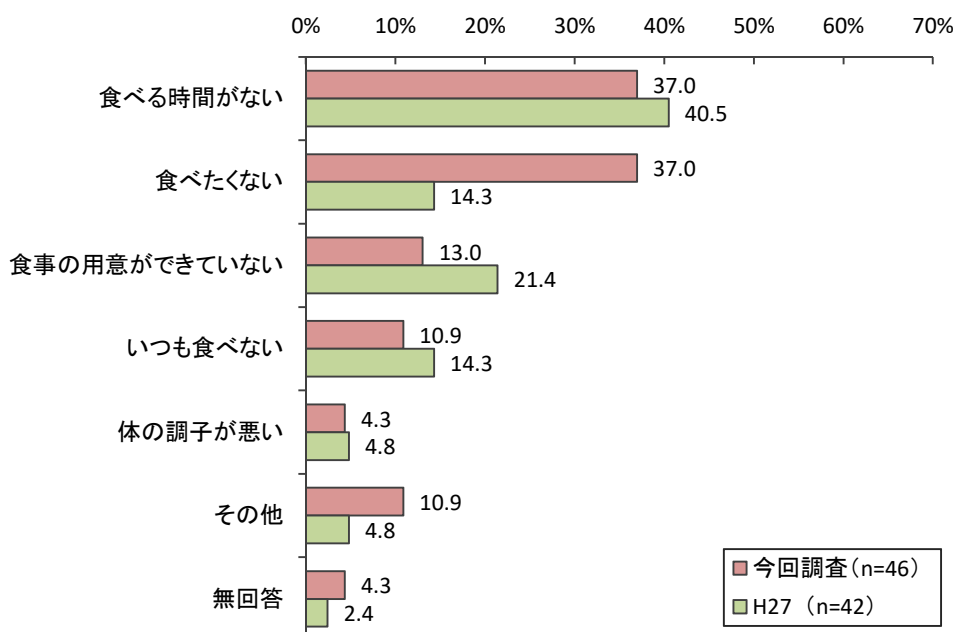


中学生は「時間がない」とともに、「食べたくない」という回答が最も多い

【中学校2年生】

「食べる時間がない」「食べたくない」が最も多く、37.0%となっています。（図19）

図19 朝食を食べていない理由（中学校2年生）



■就寝時間と朝食の関係について

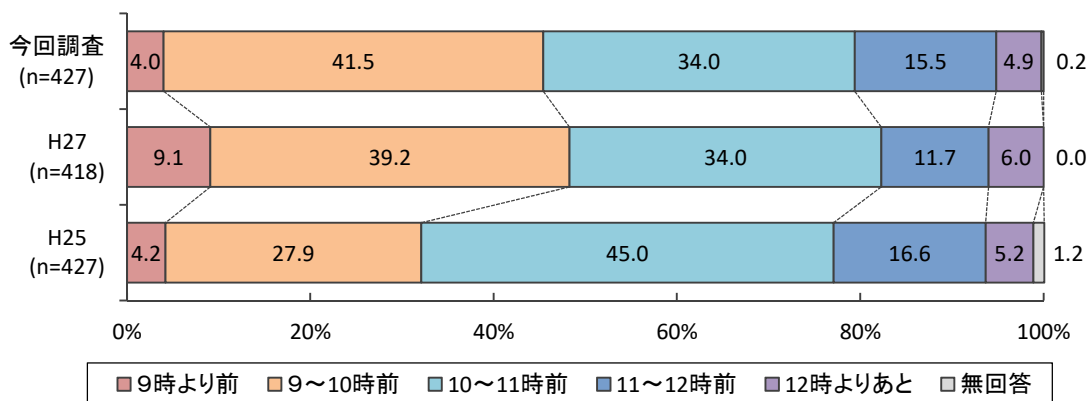
小・中学生の就寝時間は「9～10時前」が最も多く、「眠くない」も減っている

【小学校6年生】

「9～10時前」が最も多く、41.5%となっています。次いで「10～11時前」が34.0%、「11～12時前」が15.5%と続いています。

平成27年調査と比べて「9時より前」が5.1ポイントの減少に対し、「11～12時前」が3.8ポイント増加しています。（図20）

図20 就寝時間（小学校6年生）

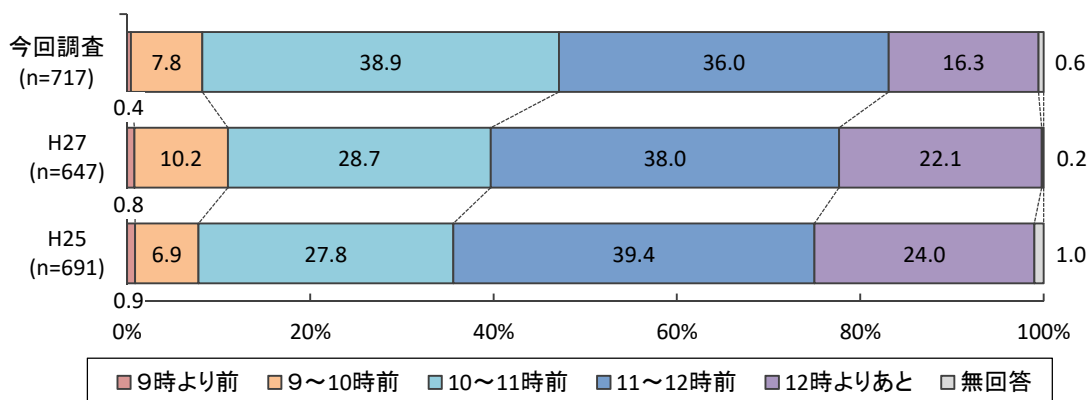


【中学校2年生】

「10～11時前」が最も多く、38.9%となっています。次いで「11～12時前」が36.0%、「12時よりあと」が16.3%と続いています。

平成27年調査と比べて「10～11時前」が10.2ポイント増加しています。（図21）

図21 就寝時間（中学校2年生）

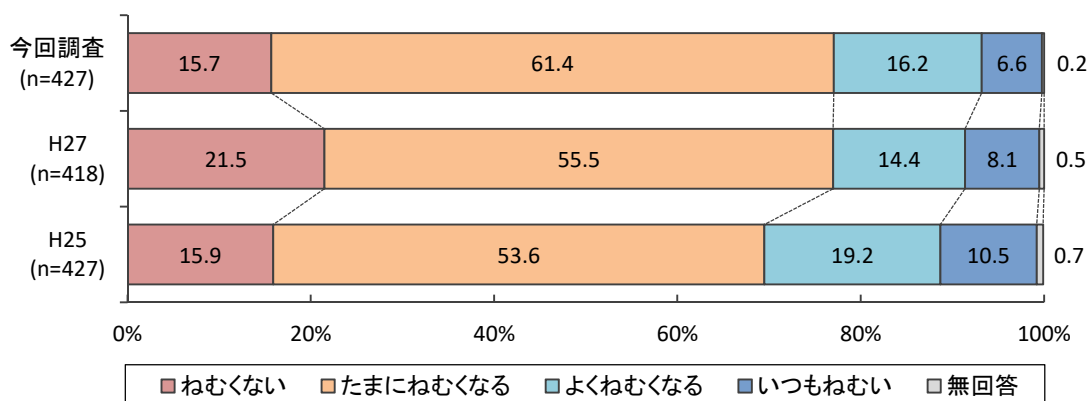


【小学校6年生】

「たまに眠くなる」が最も多く、61.4%となっています。次いで「よく眠くなる」が16.2%、「眠くない」が15.7%、「いつも眠い」が6.6%と続いています。

平成27年と比べて「眠くない」が5.8ポイント、「いつも眠い」が1.5ポイント減少し、「たまに眠くなる」が5.9ポイント、「よく眠くなる」が1.8ポイント増加しています。（図22）

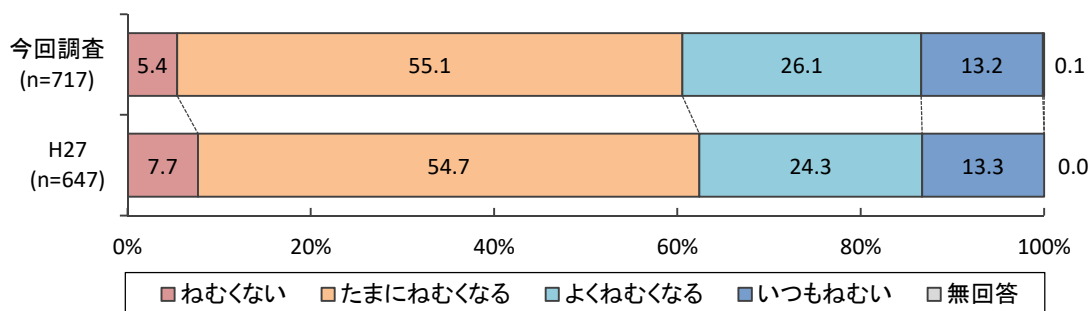
図22 学校で眠くなることがあるか（小学校6年生）



【中学校2年生】

「たまに眠くなる」が最も多く、55.1%となっています。次いで「よく眠くなる」が26.1%、「いつも眠い」が13.2%と続いています。（図23）

図23 学校で眠くなることがあるか（中学校2年生）



■主食・主菜・副菜のそろった食事について

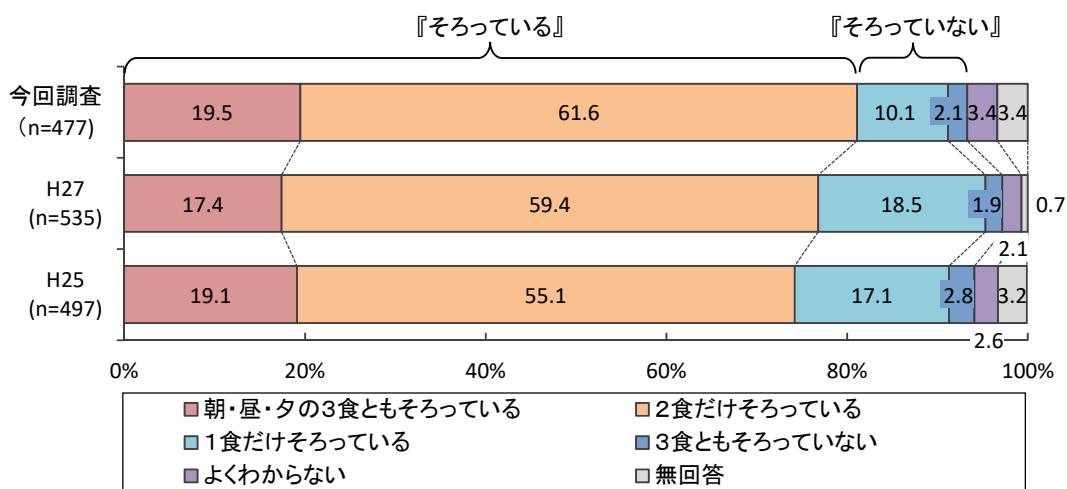
1日2食以上、主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合は、小・中学生で約75%、成人で約80%

[主食：ご飯・パン・麺など、主菜：魚や肉などのおかず、副菜：野菜などのおかず]

【3歳6か月児】

「2食だけそろっている」が最も多く、61.6%となっています。次いで「朝・昼・夕の3食ともそろっている」が19.5%、「1食だけそろっている」が10.1%と続いています。平成27年調査と比べて「1食だけそろっている」が8.4ポイント減少しています。（図24）

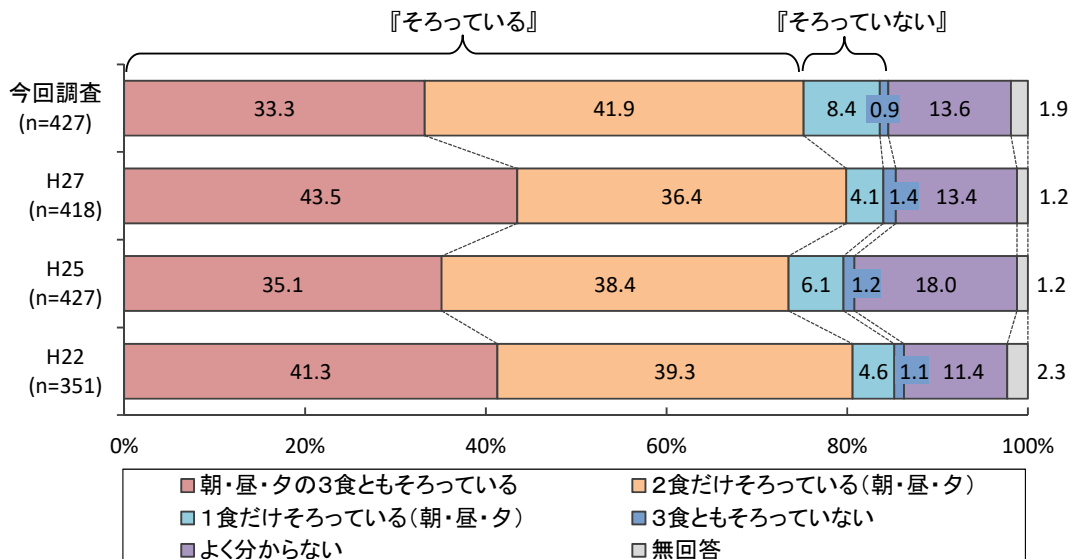
図24 主食・主菜・副菜のそろった食事（3歳6か月児）



【小学校6年生】

「2食だけそろっている」が最も多く、41.9%となっています。次いで「朝・昼・夕の3食ともそろっている」33.3%と続いています。平成27年調査と比べて「朝・昼・夕の3食ともそろっている」が10.2ポイント減少しています。（図25）

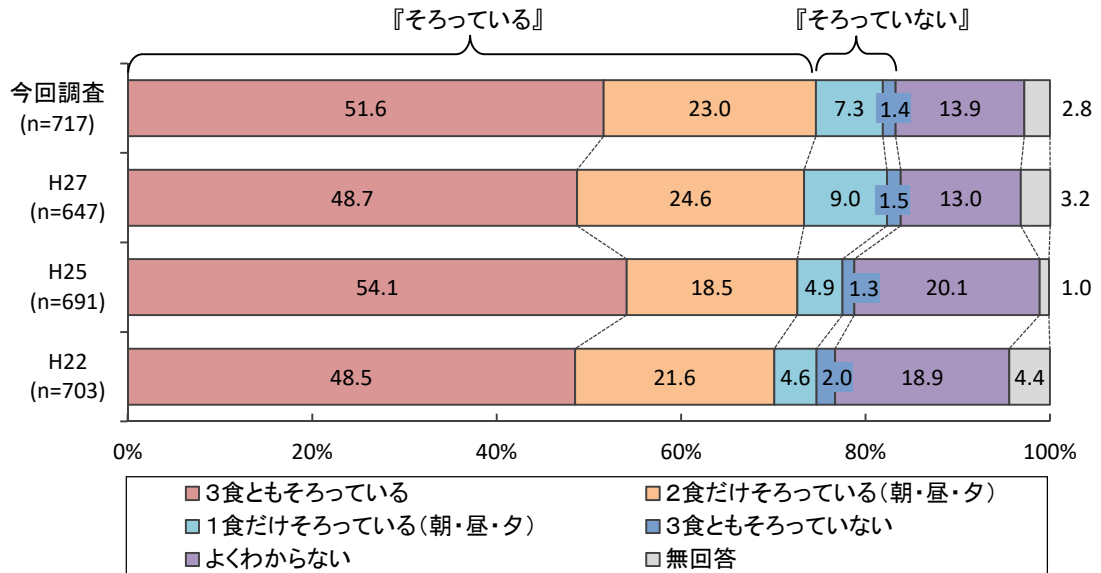
図25 主食・主菜・副菜のそろった食事（小学校6年生）



【中学校2年生】

「3食ともそろっている」が最も多く、51.6%となっています。次いで「2食だけそろっている」が23.0%、「よくわからない」が13.9%と続いています。平成27年調査と比べて「3食ともそろっている」が2.9ポイント増加しています。（図26）

図26 主食・主菜・副菜のそろった食事（中学校2年生）



【成人】

1日2食以上、主食・主菜・副菜のそろった食事をしているかについて、「はい」が78.4%、「いいえ」が19.5%となっています。（図27）年齢が高くなるほど「はい」が多くなっています。（図28）性別ごとに年齢による違いをみると、「はい」は20～39歳の男性56.9%、女性67.9%と少なくなっていますが、年齢が高くなるにつれて多くなり、65歳以上の女性は90%台に達しています。（図29）

図27 主食・主菜・副菜のそろった食事（成人）

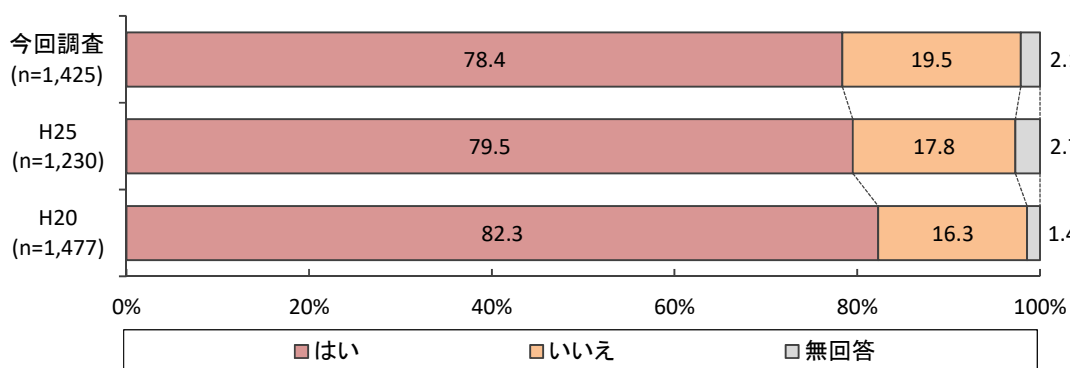


図28 主食・主菜・副菜のそろった食事（年齢別）

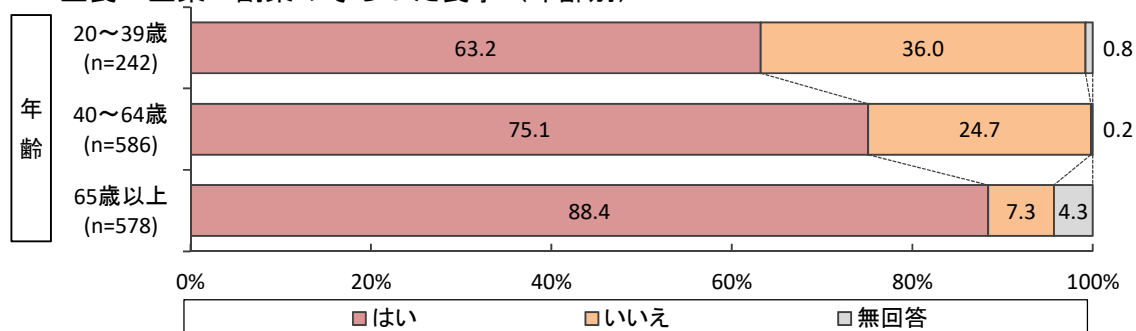
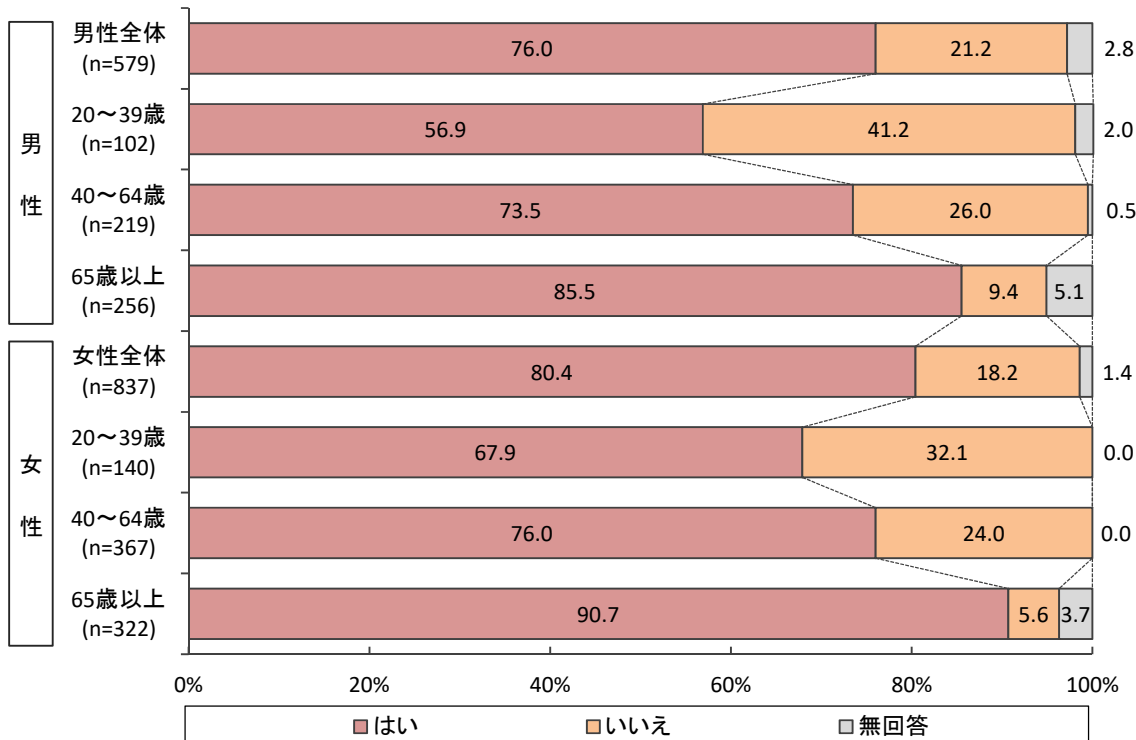


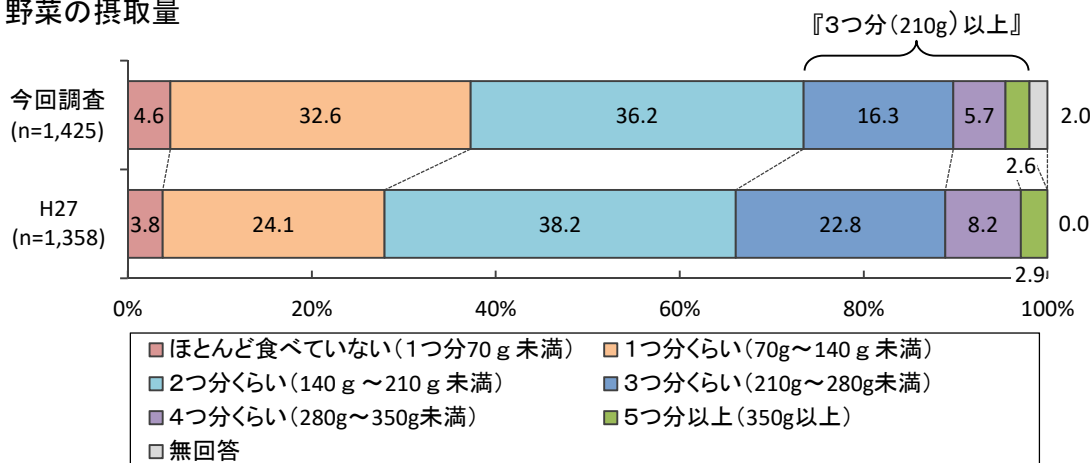
図29 主食・主菜・副菜のそろった食事（性別×年齢別）



■野菜の摂取について

野菜の摂取については、「2つ分くらい」が最も多く 36.2%、「1つ分くらい」32.6%、「ほとんど食べていない」4.6%をあわせると、7割以上が野菜の摂取が少ないとの回答です。「3つ分くらい」「4つ分くらい」「5つ分以上」いずれも前回調査を下回ります。（図 30）

図 30 野菜の摂取量



■咀嚼について

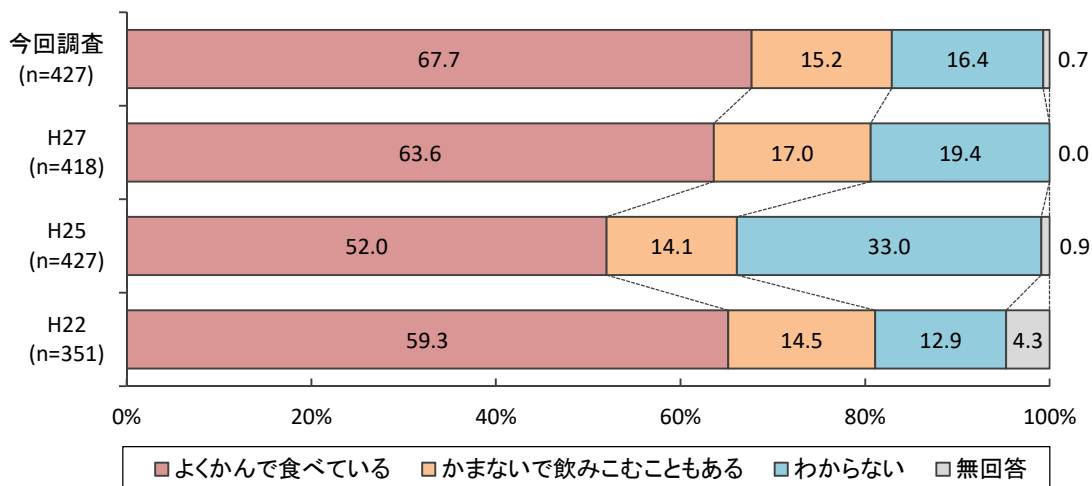
よく噛んで食べている小学生は約 68%、中学生は約 63%、成人は約 45%

【小学校 6 年生】

「よく噛んで食べている」が最も多く、67.7%となっています。次いで「わからない」が 16.4%、「噛まないで飲みこむこともある」が 15.2%と続いています。平成 27 年調査と比べて「よく噛んで食べている」が 4.1 ポイント増加しています。

(図 31)

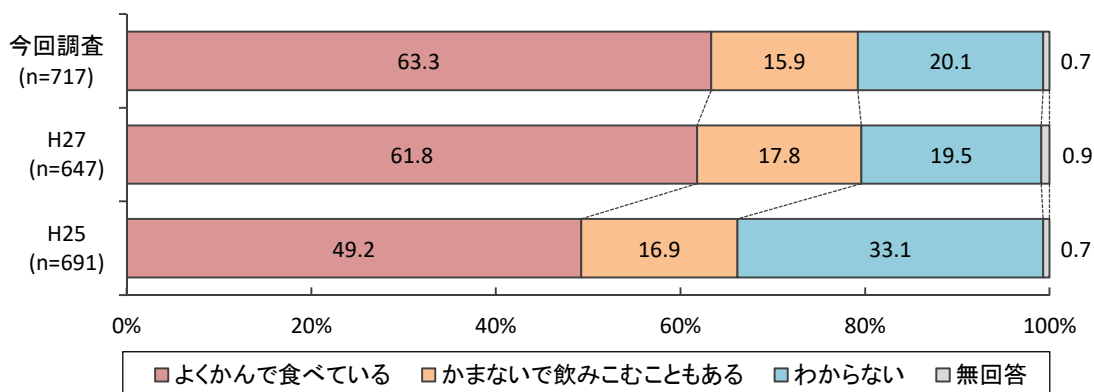
図 31 咀嚼について (小学校 6 年生)



【中学校2年生】

「よく噛んで食べている」が最も多く、63.3%となっています。次いで「わからない」が20.1%、「噛まないで飲むこともある」が15.9%と続いています。（図32）

図32 咀嚼について（中学校2年生）



【成人】

「ゆっくりよく噛んで食べている」8.6%、「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」36.8%、あわせた「よく噛んで食べている」は45.4%となっています。（図33）

年齢別では「よく噛んで食べている」は65歳以上55.9%、20～39歳42.2%、40～64歳36.5%の順となっています。（図34）性別ごとに年齢による違いをみると、40～64歳の男性で「よく噛んで食べている」が29.2%と少なくなっています。（図35）

BMI別にみると、「よく噛んで食べている」は「やせ」59.8%、「標準」46.2%、「肥満」36.5%の順となっています。（図36）

図33 咀嚼について（成人）

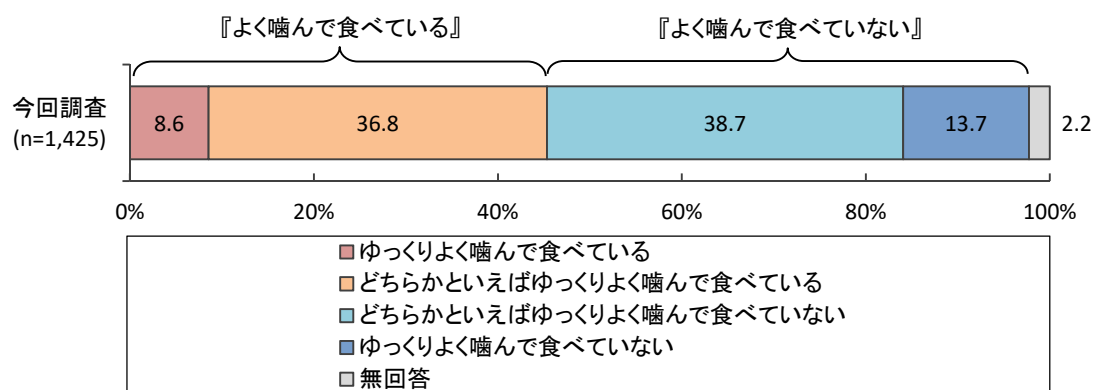


図 34 咀嚼について（年齢別）

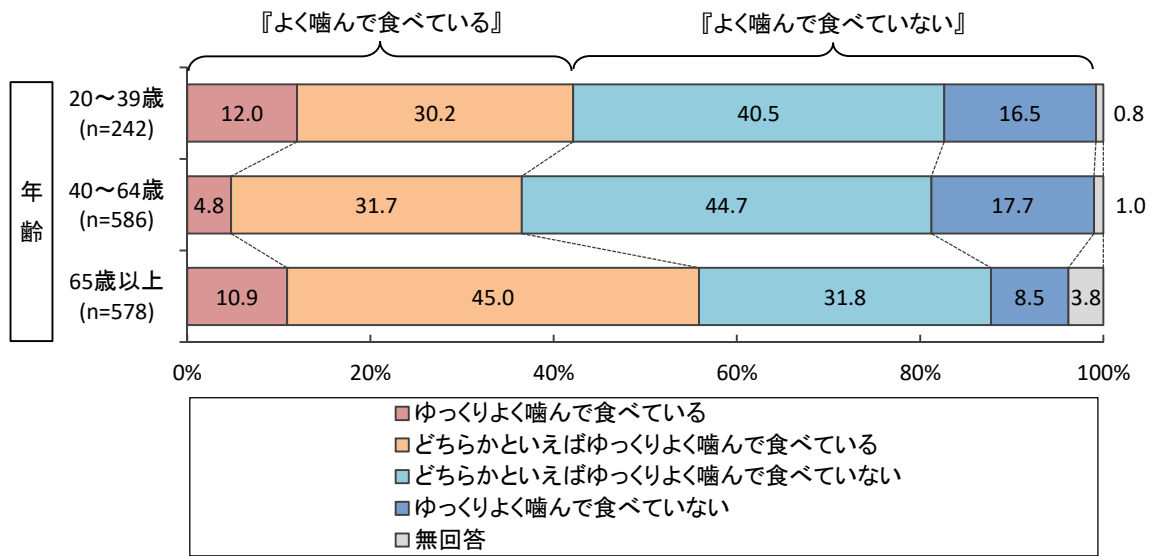


図 35 咀嚼について（性別×年齢別）

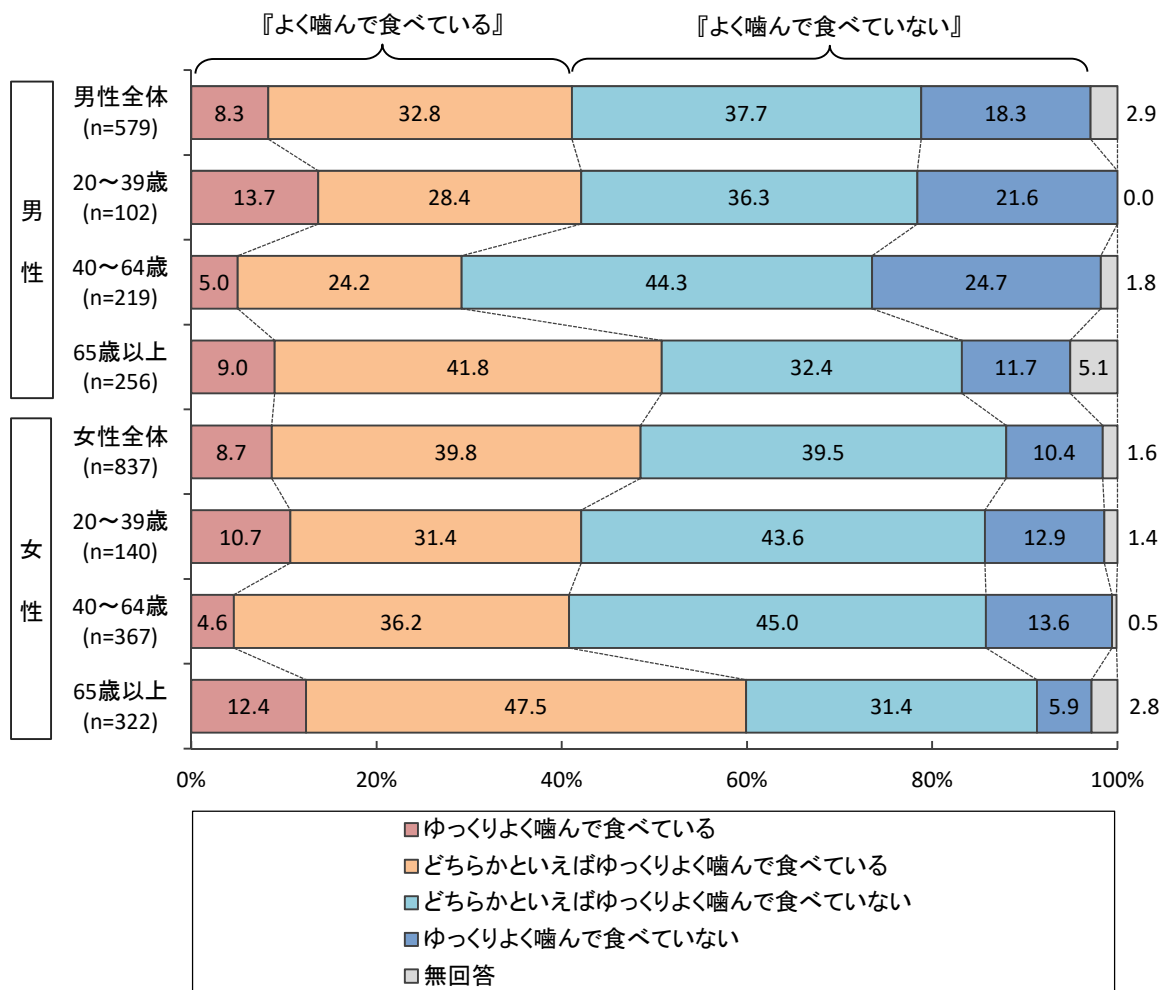
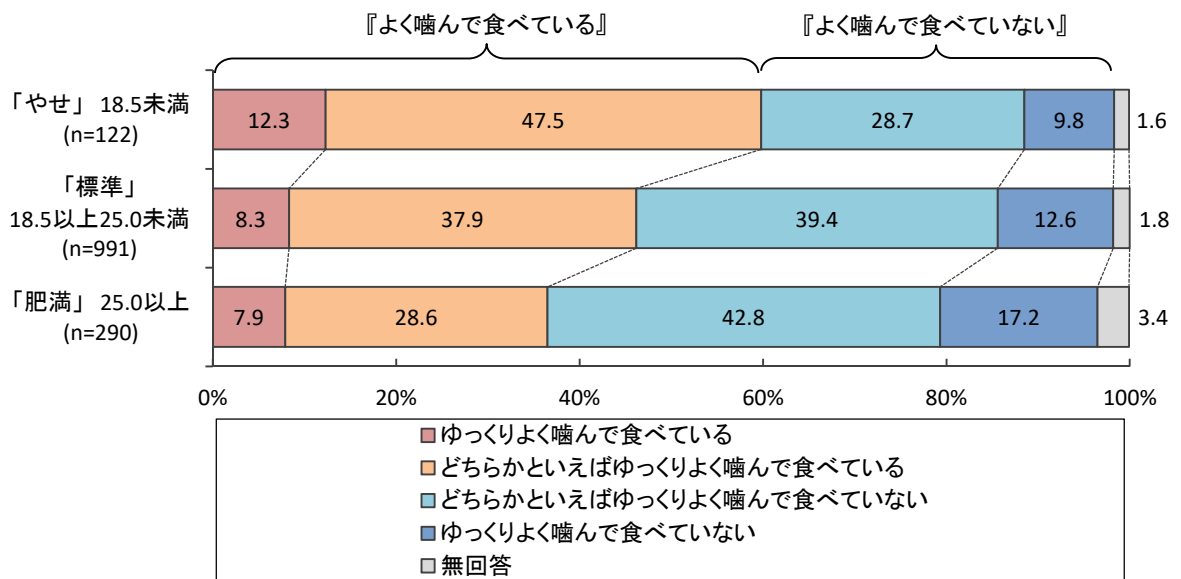


図 36 咀嚼について（BMI 別）

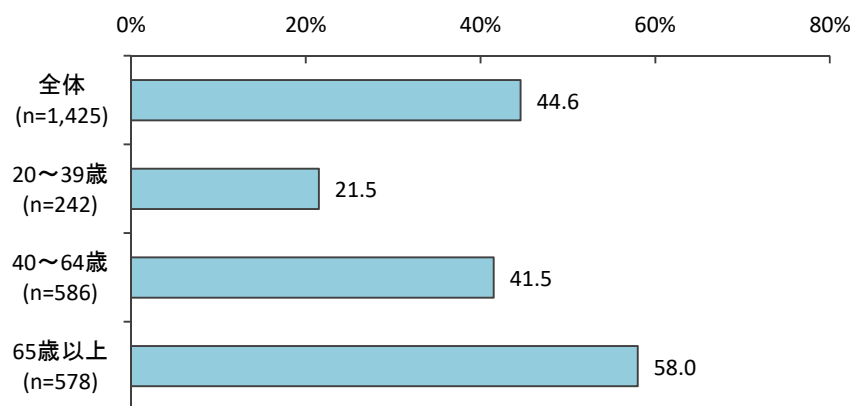


■塩分について

塩分を控える市民の割合は、年齢とともに多くなる

健康で気をつけていることとして、塩分を控える市民の割合は 44.6%、年齢別では年齢が高くなるにつれて多くなります。（図 37）

図 37 塩分を控える市民の割合（年齢別）



■生活習慣病予防のための食生活の実践

生活習慣病予防のために普段から気をつけている市民の割合は、全体では6割を超え、年齢とともに多くなる

生活習慣病予防のために普段から気をつけた食生活を「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」をあわせた「実践している」は62.7%で、6割を超えています。（図38）

年齢別では、20～39歳の「実践している」は45.4%、40～64歳60.3%、65歳以上72.9%と、年齢が高くなるにつれて多くなっています。（図39）

性別ごとに年齢による違いをみると、20～39歳の男性で「実践している」が37.3%と少なくなっています。（図40）

図38 生活習慣病予防のための食生活の実践

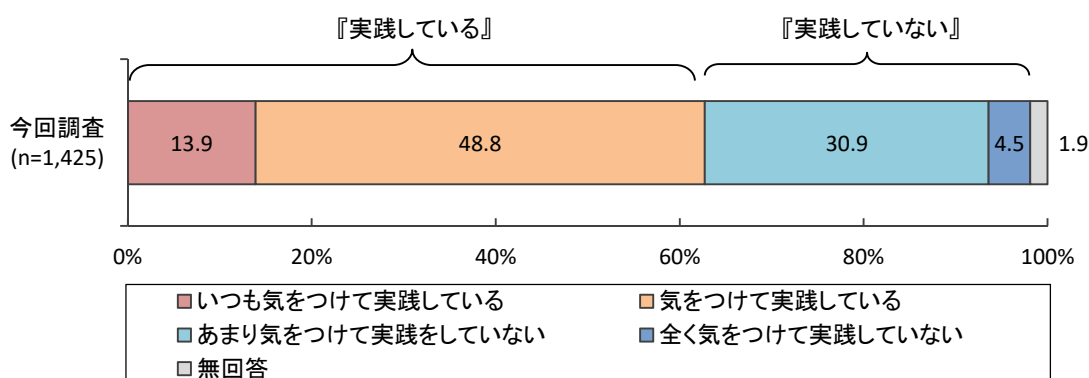


図39 生活習慣病予防のための食生活の実践（年齢別）

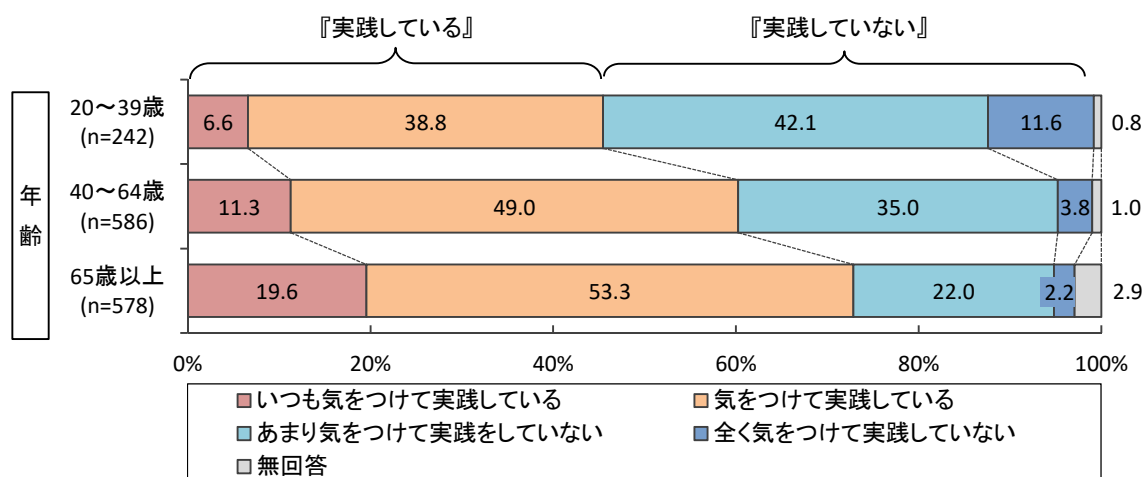
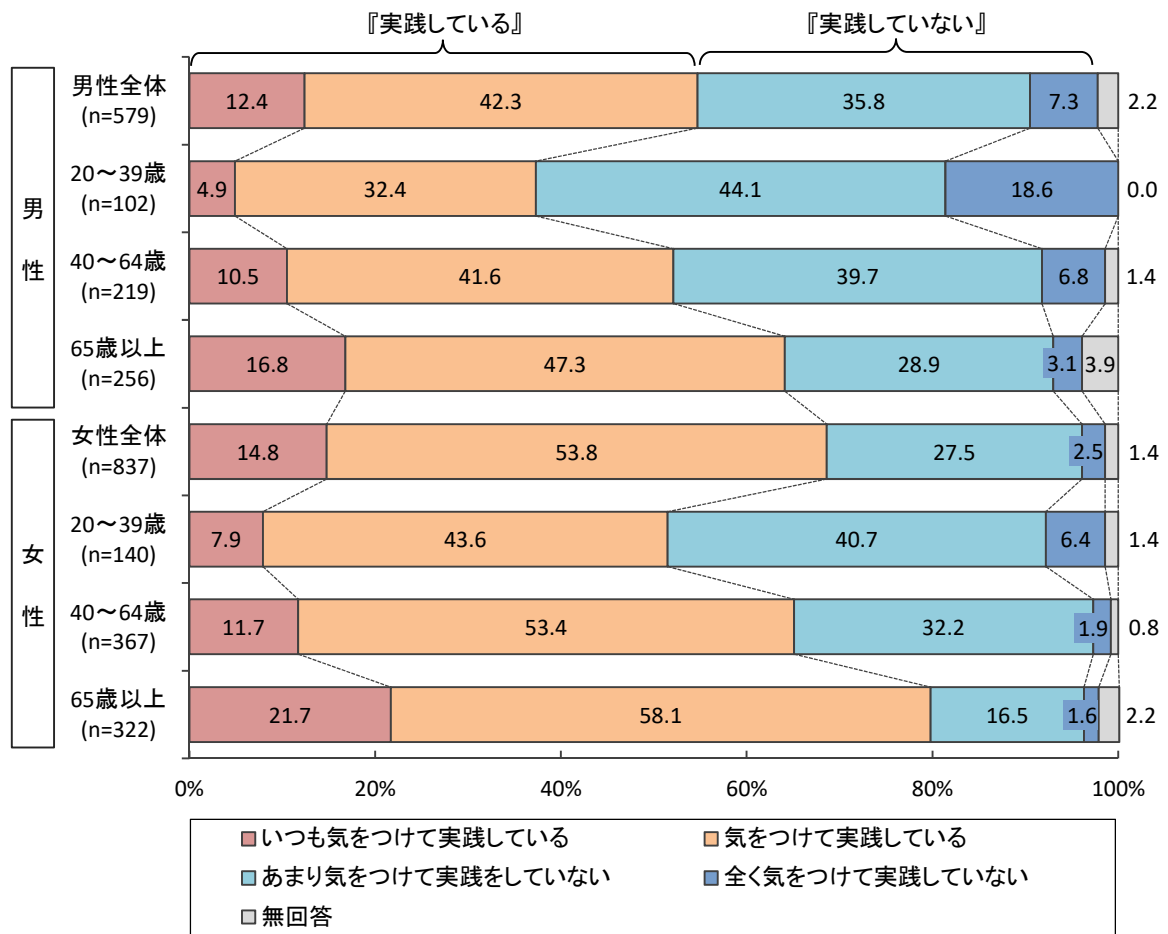


図 40 生活習慣病予防のための食生活の実践（性別×年齢別）

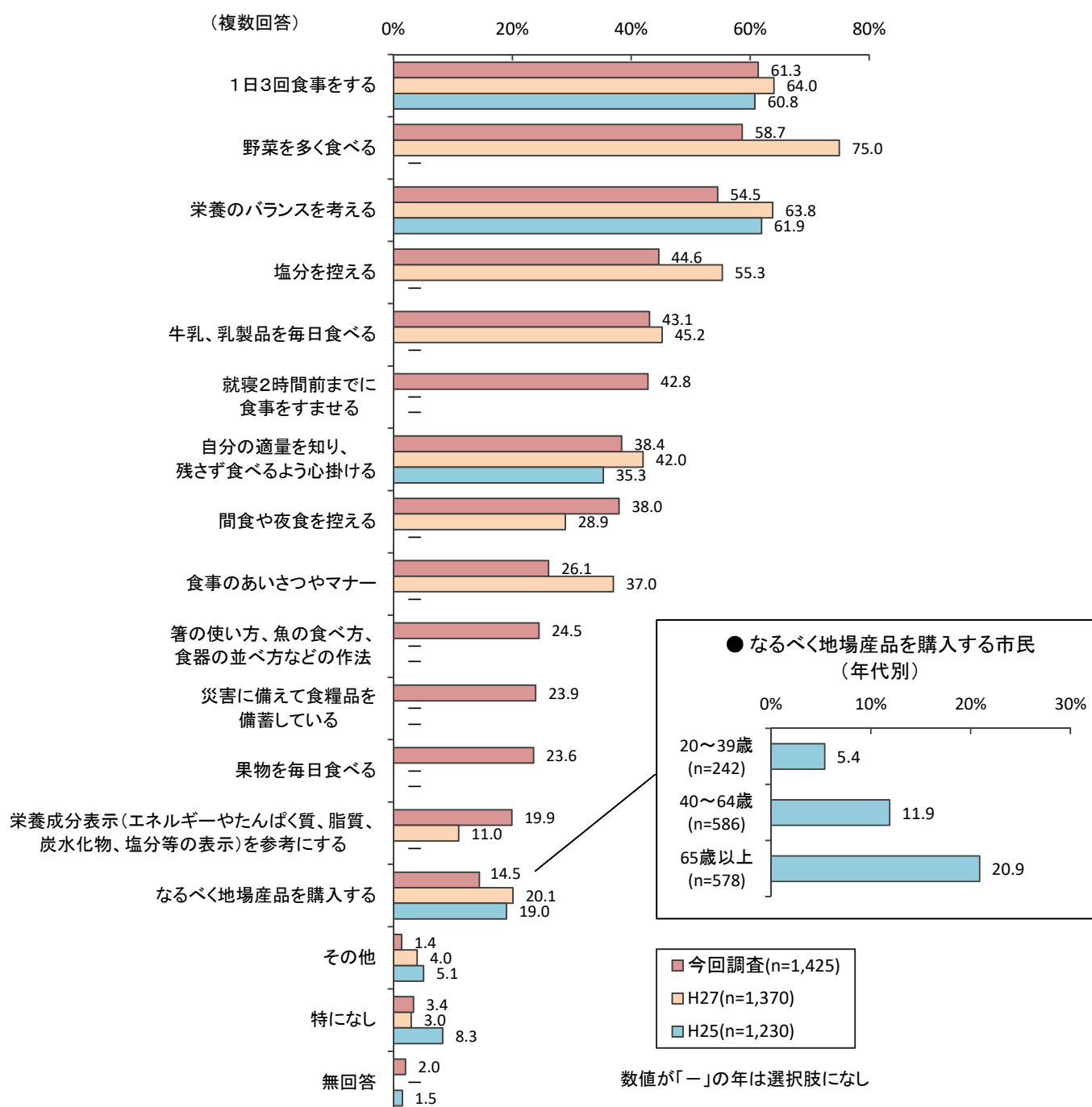


■食生活で気をつけていること

- 1日3回食事をするようにしている市民は約61%
- 野菜を多く食べるようにしている市民は約59%
- 栄養のバランスを考えるようにしている市民は約55%
- 塩分を控えるようにしている市民は約45%
- 牛乳、乳製品を毎日食べるようにしている市民は約43%
- 就寝2時間前までに食事をすませるようにしている市民は約43%

平成27年調査と比べると、「1日3回食事をする」は大きく変化なし、「野菜を多く食べる」、「塩分を控える」は10ポイント以上減少しています。(図41)

図41 食生活で気をつけていること



■食品ロス削減の実践

食品ロス削減について実践している市民は女性の方が多く、具体的な取組で最も多いのは、「残さず食べる」

食べ物を無駄にしないよう「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」をあわせた「実践している」市民の割合は79.0%となっています。（図42）

性別ごとにみると、女性が81.6%と男性の75.7%を5.9ポイント上回りますが、「いつも気をつけて実践している」については、男性が25.4%と女性の21.9%を3.5ポイント上回ります。（図43）

図42 食品ロス削減のための行動

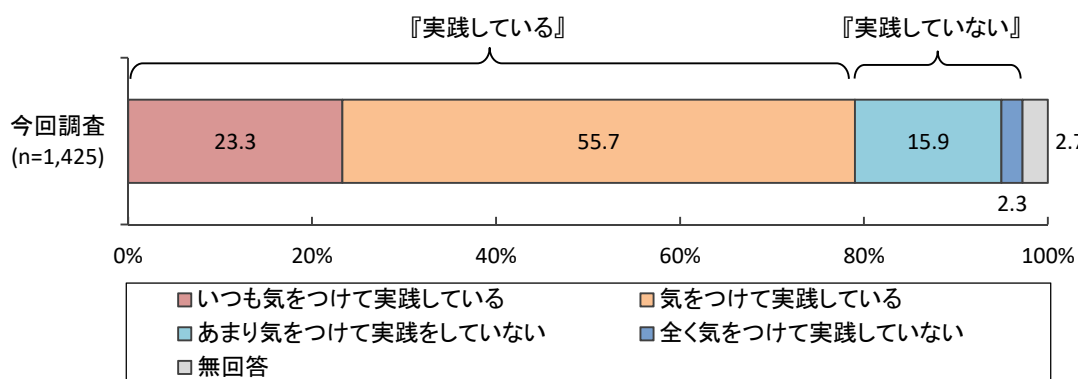
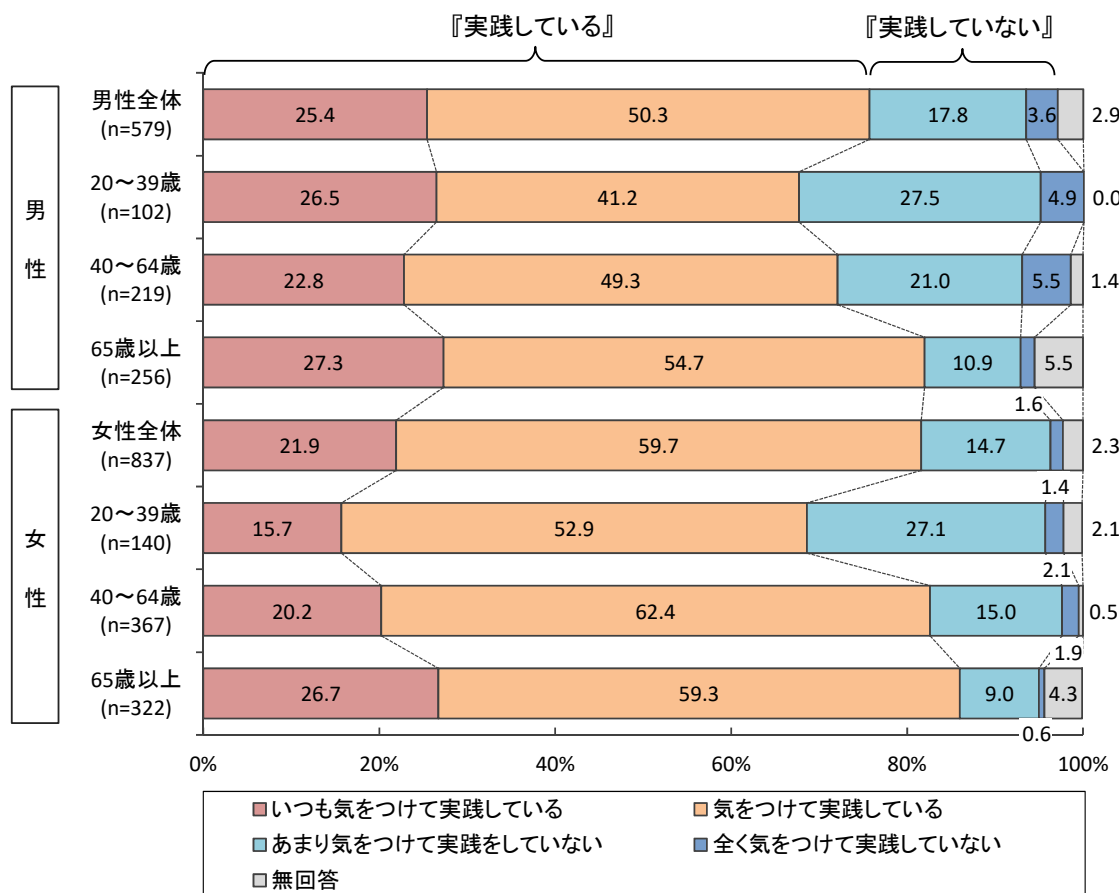
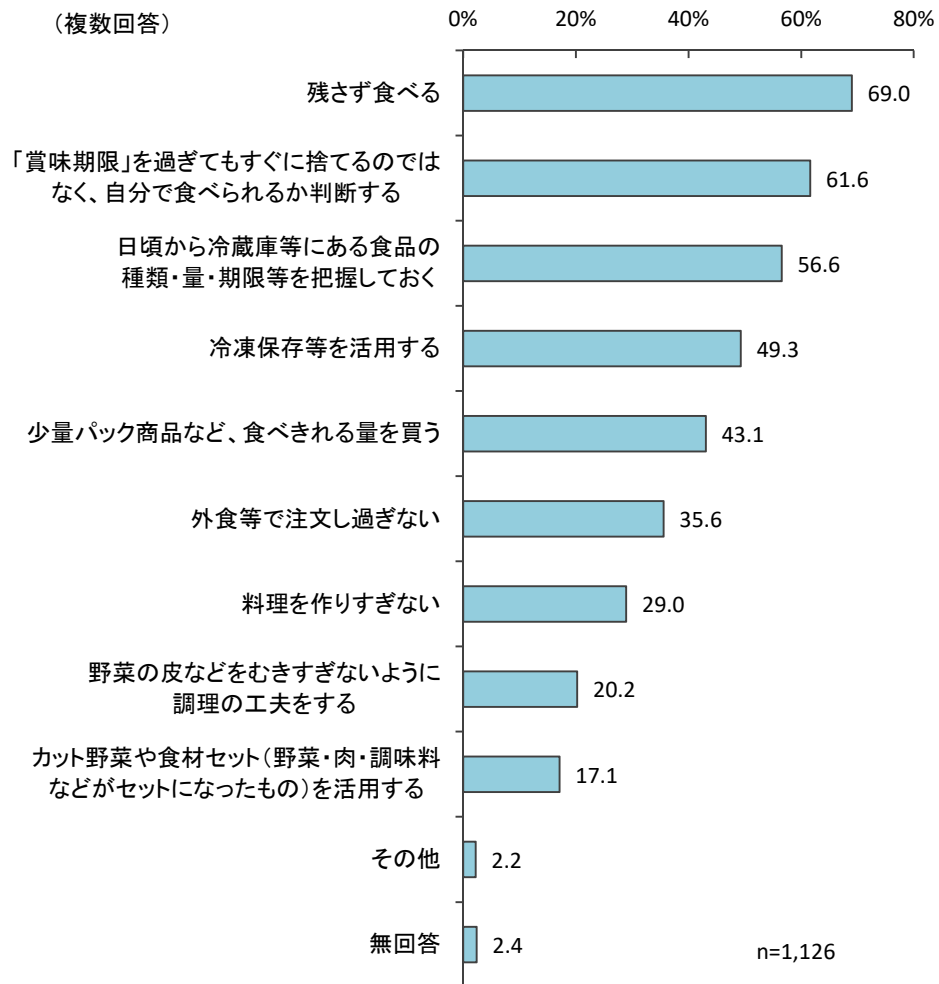


図43 食品ロス削減のための行動（性別×年齢別）



具体的に取り組んでいることは、「残さず食べる」69.0%、「賞味期限を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」61.6%、「日頃から冷蔵庫等にある食品の種類・量・期限等を把握しておく」56.6%、「冷凍保存等を活用する」49.3%と続いています。（図44）

図44 食品ロスを減らすために取り組んでいること



■ 食品の安全性に関する基礎知識の有無

食品の安全性に関する基礎知識がある市民は 20 ～ 39 歳が他の年代に比べて少なく、年齢が高くなるにつれて多くなる

基礎的な知識の例：「どのような食品を選んだ方がよいか」「どのような調理が必要か」等

「知識がある」が 69.5%、「知識がない」が 28.2%となっています。「知識がある」は平成 20 年調査から平成 25 年調査にかけて 9.8 ポイント減少したものの、平成 25 年調査と今回調査にかけては大きな変動がありませんでした。（図 45）

年齢別にみると、20～39 歳で「知識がある」が 51.2%と少なくなっていますが、年齢が高くなるにつれて多くなり、65 歳以上で 79.7%となっています。（図 46）

性別ごとにみると、「知識がある」は女性が 77.4%と男性の 58.4%を 19 ポイント上回っています。（図 47）

図 45 食品の安全性に関する知識

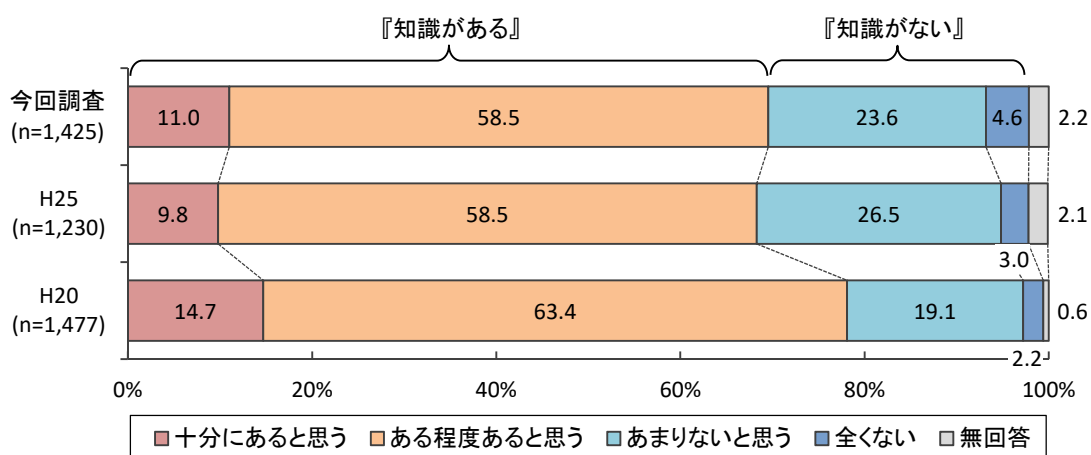


図 46 食品の安全性に関する知識（年齢別）

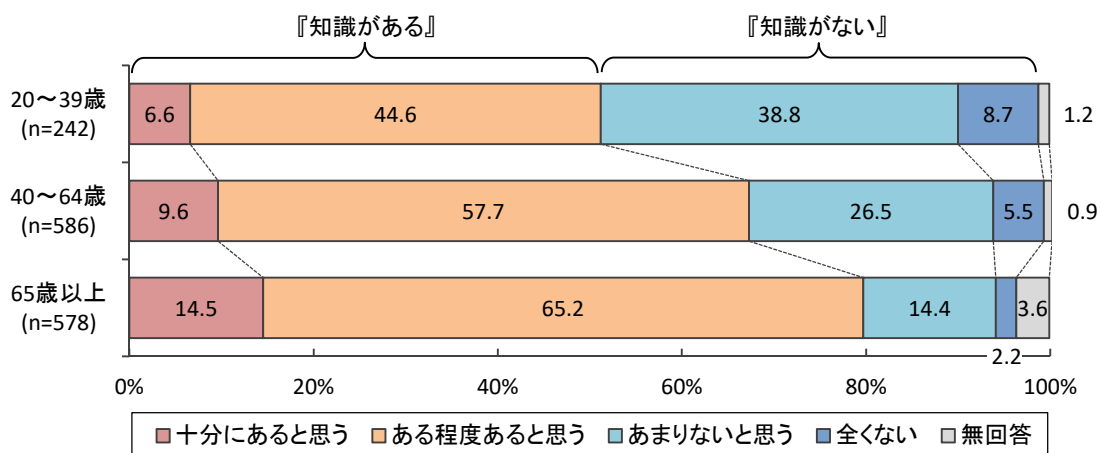
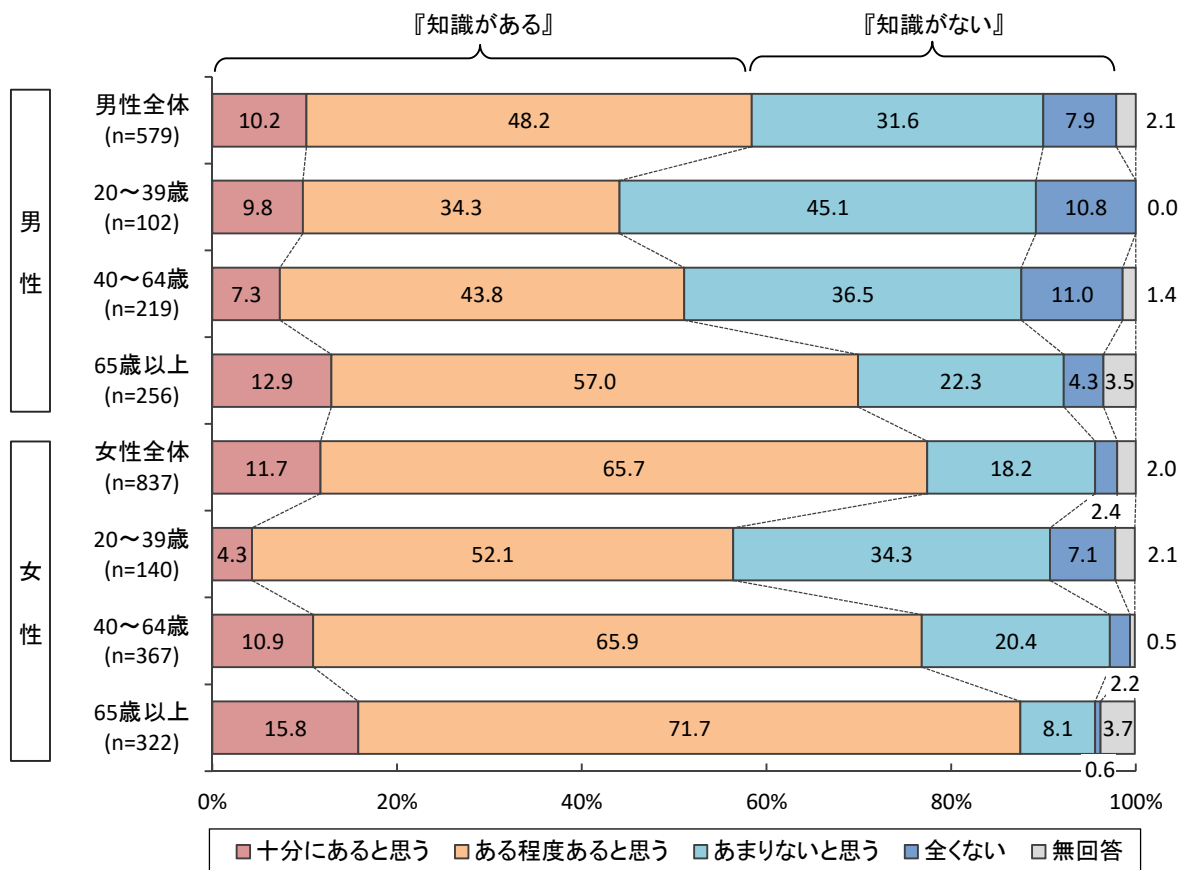


図 47 食品の安全性に関する知識（性別×年齢別）



○食の安全安心の取組

神奈川県では、県民の健康を保護し、並びに県民の食品及び食品関連事業者に対する信頼の向上に寄与するため、平成 21 年 7 月に「神奈川県食の安全・安心の確保推進条例」を制定しました。本市では、この条例に基づき、食品の自主回収に関する情報の収集や市民への提供、輸入事業者の監視等を行っています。

また、神奈川県と共催し、食の安全・安心に関するリスクコミュニケーション（県民の皆様との意見交換）などを行っています。

■伝統的な料理や行事食にふれる機会

伝統的な料理や行事食にふれる機会がない市民が半数以上で、女性の方が男性より機会がある市民が10ポイント以上多い

伝統的な料理や行事食にふれる機会が「よくある」と「時々ある」をあわせた「ある」は41.0%で、「あまりない」と「ほとんどない」をあわせた「ない」は56.2%と、「ある」を上回ります。(図48)

性別ごとにみると、「ある」は女性の46.0%が男性の33.7%を12.3ポイント上回ります。(図49)

図48 伝統的な料理や行事食にふれる機会の有無

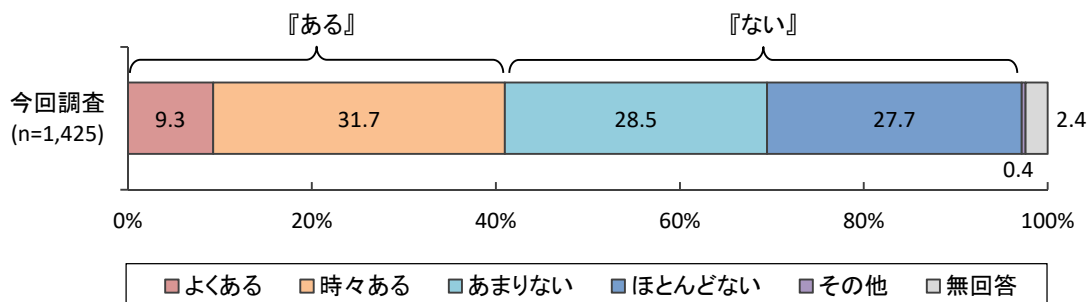
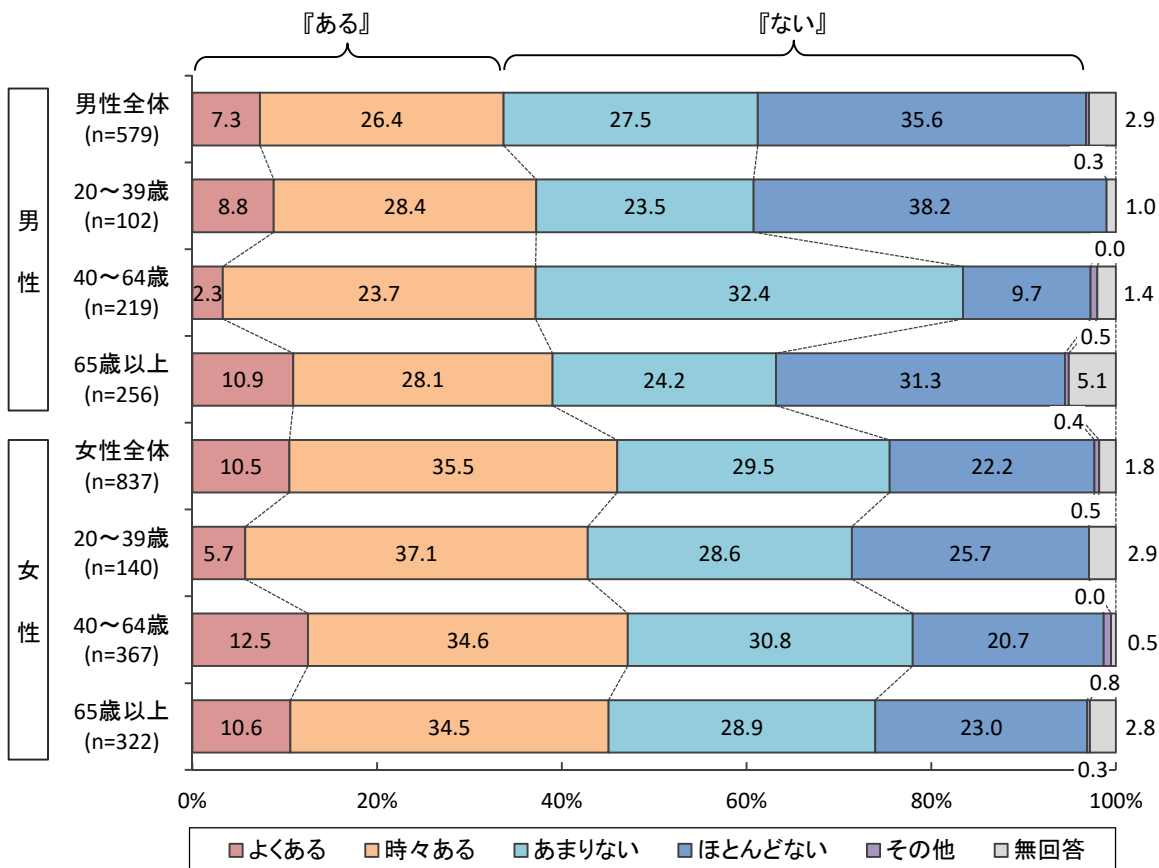


図49 伝統的な料理や行事食にふれる機会の有無(性別×年齢別)



■共食（きょうしょく）について

誰かと一緒に食事をしている市民の割合は、3歳6か月児は朝食で77%、夕食で95%、小学校6年生は朝食で約60%、夕食で約90%、中学校2年生は朝食で約50%、夕食で約90%、成人で約77%であり、子どもは朝食より夕食のほうが共食の機会が多い

【3歳6か月児】

朝食では、「大人もいるが全員でない」が最も多く、62.1%となっています。次いで「家族全員」が14.9%、「子どもだけで」が14.7%と続いています。平成27年調査と比べて「家族全員」が5.5ポイント減少し、「子どもだけ」が4.2ポイント増加しています。（図50）

夕食では、「大人もいるが全員ではない」が最も多く、74.0%となっています。次いで「家族全員」が21.0%、「子どもだけで」、「ひとりで」が1.0%と続いています。平成27年調査と比べて「家族全員」が0.9ポイント減少し、「大人もいるが全員ではない」が1.3ポイント減少しています。（図51）

朝食と夕食を比べると、夕食のほうが共食の機会が多くなっています。

図50 朝食をふだん誰と一緒に食べるか（3歳6か月児）

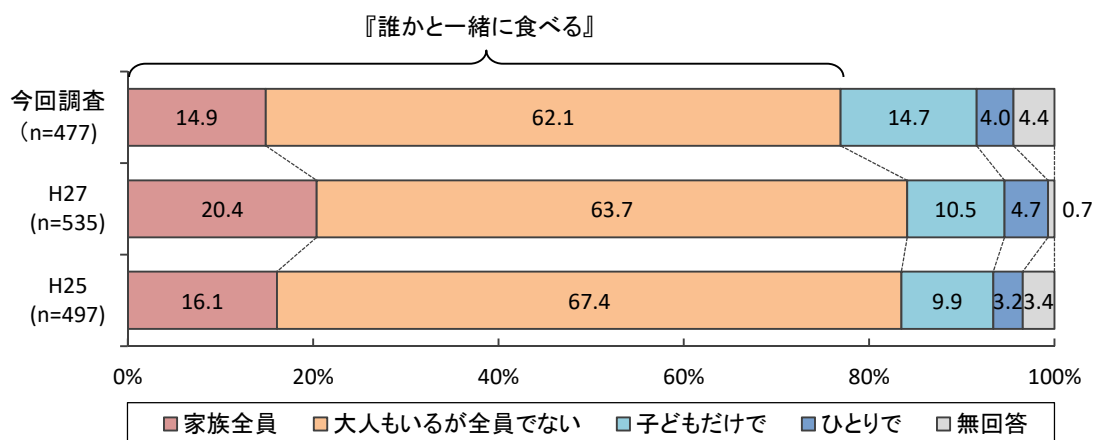
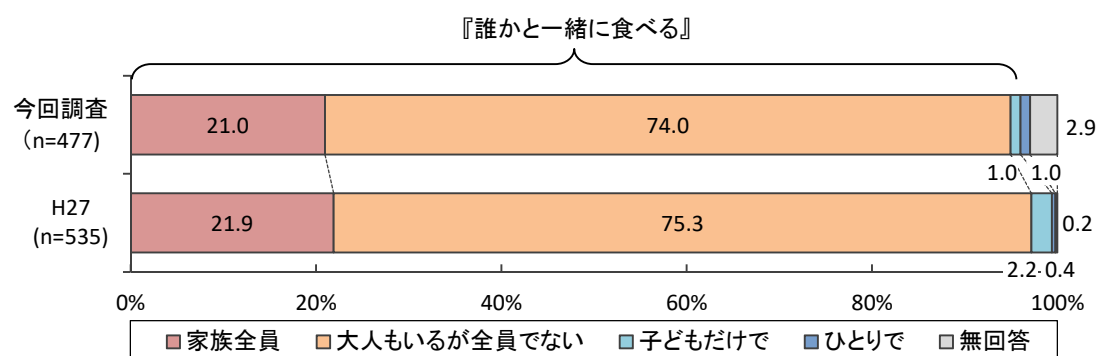


図51 夕食をふだん誰と一緒に食べるか（3歳6か月児）



【小学校6年生】

朝食では、「大人もいるが全員でない」が最も多く、43.8%となっています。次いで「ひとりで」が20.6%、「子どもだけで」が20.1%、「家族全員」が14.8%と続いています。（図52）

夕食では、「大人もいるが全員でない」が最も多く、62.8%となっています。次いで「家族全員」が28.1%、「子どもだけで」が5.6%、「ひとりで」が3.0%と続いています。平成25年調査、平成27年調査と比べて、家族全員で食べる割合が経年的に減少しています。（図53）

朝食と夕食を比べると夕食の方が共食の機会が多くなっています。

図52 朝食をふだん誰と一緒に食べるか（小学校6年生）

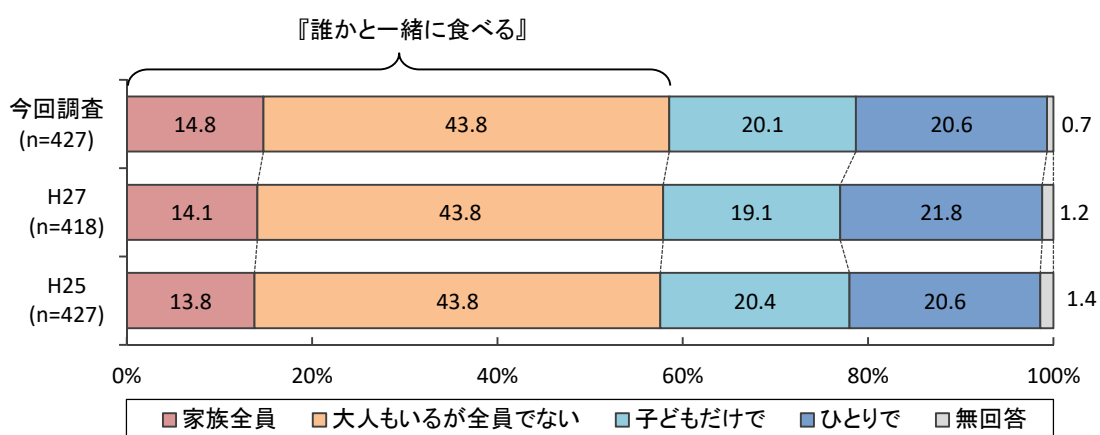
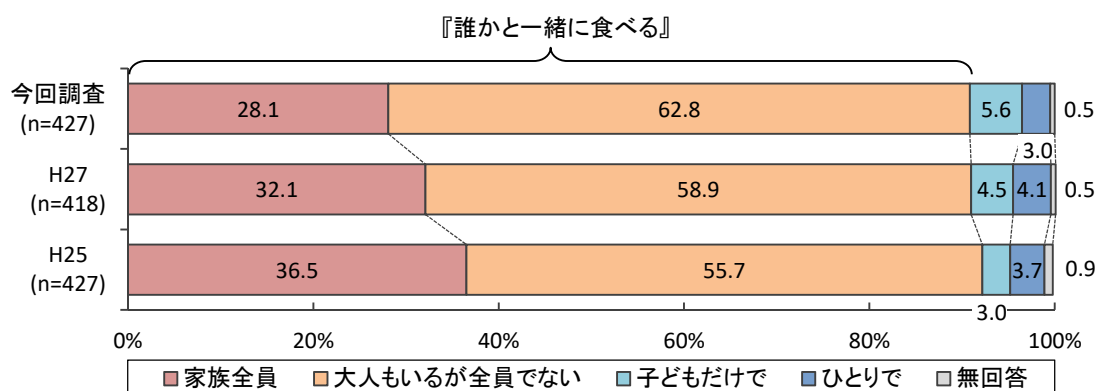


図53 夕食をふだん誰と一緒に食べるか（小学校6年生）



【中学校 2 年生】

朝食では、「大人もいるが全員でない」が最も多く 40.6%となっています。次いで「ひとりで」が 36.5%、「子どもだけで」が 12.0%、「家族全員」が 9.5%と続いています。平成 27 年調査と比べて「大人もいるが全員でない」が 7.5 ポイント増加しています。（図 54）

夕食では、「大人もいるが全員でない」が最も多く 58.0%となっています。次いで「家族全員」が 31.7%、「ひとりで」が 6.0%、「子どもだけで」が 3.8%と続いています。平成 25 年調査、平成 27 年調査と比べて「大人もいるが全員でない」が増加しています。（図 55）

朝食と夕食を比べると夕食の方が共食の機会が多くなっています。

図 54 朝食をふだん誰と一緒に食べるか（中学校 2 年生）

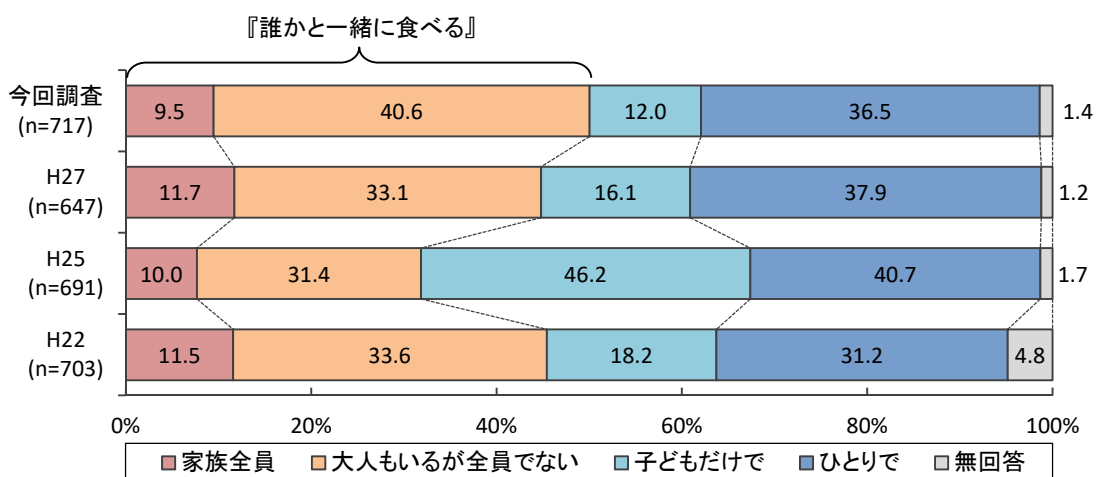
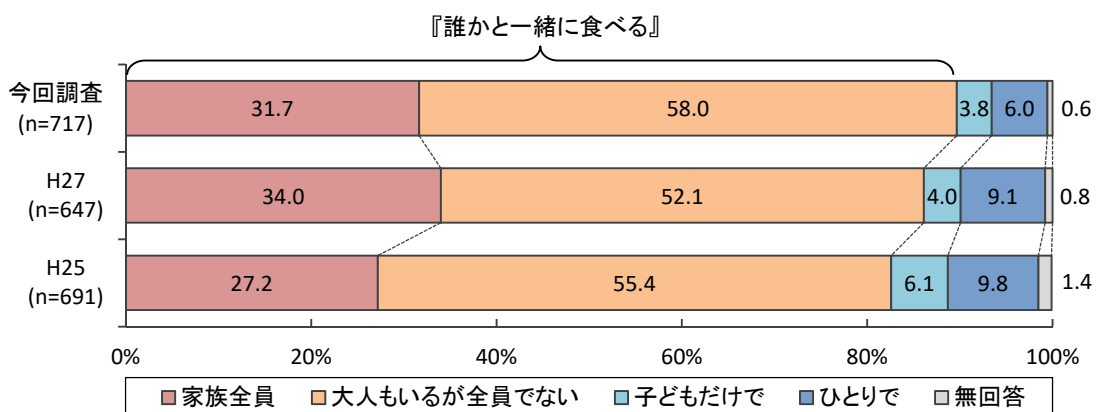


図 55 夕食をふだん誰と一緒に食べるか（中学校 2 年生）



【成人】

「1日のうち1食以上は家族や友人と食べる」が76.8%、「ほとんど1人で食べる」が21.1%となっています。（図56）年齢別では「1日のうち1食以上は家族や友人と食べる」は20～39歳が84.7%、40～64歳が80.4%、65歳以上が70.1%と年齢が高くなるほど、やや少なくなっています。（図57）「1日のうち1食以上は家族や友人と食べる」は、男女とも20～39歳で最も多くなっています。一方、「ほとんど1人で食べる」は女性の65歳以上で29.2%と最も多くなっています。（図58）

図56 共食の状況

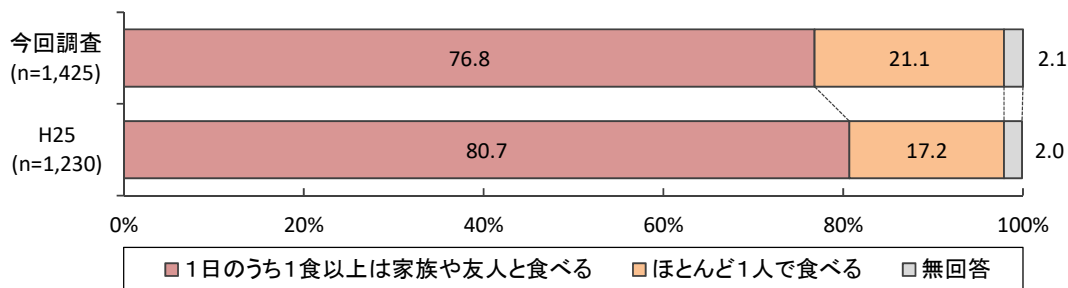


図57 共食の状況（年齢別）

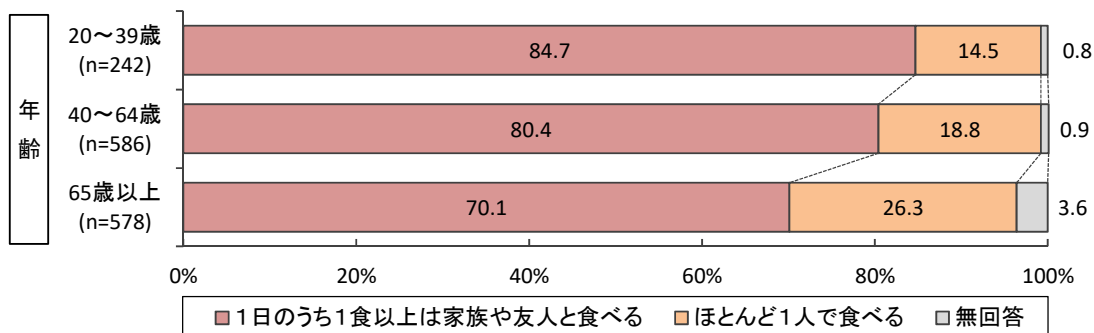


図58 共食の状況（性別×年齢別）

